

令和7年度

# 事業報告書



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

福岡県支部

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

## はじめに

日本赤十字社は、2027年（令和9年）に創立150周年を迎えます。

その一里塚として、令和7年4月に開幕した大阪・関西万国博覧会に、日本赤十字社は国際赤十字・赤新月パビリオンを出展し、「人間を救うのは、人間だ。～the power of humanity～」をスローガンに、赤十字の原点と人道の理念を国内外に広く発信しました。1867年のパリ万国博覧会で佐野常民が赤十字精神と出会った歴史と重なるこの機会は、私たち1人ひとりが赤十字の意義を改めて見つめ直す契機となりました。期間中は約31万人の方々にご来場いただき、人道への理解と共感を深めていただくことができました。

近年の自然災害の激甚化、さらに、国際的な人道上の課題が深刻化する中、地域に根ざした赤十字の役割はますます重要性を増しています。当県支部では、地域における自助・共助の力を高めるための防災教育事業（防災セミナー）を実施しています。その依頼は年々増加しており、地域における防災意識の高まりがうかがえます。こうしたニーズに的確に応えていくため、令和7年度は防災教育事業指導者養成研修を実施し、新たに15名の指導者が誕生しました。

また、国際組織の一員として、福岡赤十字病院から、レバノンとタイに医師、看護師を派遣し、国際救援・開発協力の役割も果たしています。

人口減少や社会環境の変化が急速に進む中、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の不変の使命を、地域において着実に果たし続けることが求められています。令和9年に迎える創立150周年という節目を見据え、当県支部は、今後も地域に寄り添った赤十字活動を推進してまいります。引き続き、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 目 次

## I 事業実施状況

1	国内災害救護	1
2	救急法等の講習	9
3	青少年赤十字	13
4	国際活動	19
5	赤十字奉仕団	23
6	活動資金の募集	28
7	広報	31
8	看護師等の養成	34
9	医療事業	36
10	血液事業	42
11	社会福祉事業	48

## II 付 表

1	主な行事	53
2	支部管内施設	54
3	支部機構	55
4	支部役員名簿	56
5	支部沿革	57

# I 事業実施状況

## 1 国内災害救護

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで、国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、赤十字の人道任務として「医療救護」「こころのケア」「救援物資の備蓄と配分」「血液製剤の供給」「義援金の受付と配分」など多岐にわたる災害救護活動を行っています。

令和7年度は、幸いにも当県支部の救護班派遣はありませんでしたが、日本各地で大雨に見舞われた際には、古賀市と鹿児島県霧島市に救援物資を送達しました。そのほか、昨年度策定した南海トラフ地震対応計画の実効性の検証及び、救護班の実践力向上を図るため、宮崎県にて九州ブロック各県支部との合同訓練を行いました。

また、研修機会の拡大や訓練の質的向上の目的のため、本社主催で行われていた全国赤十字救護班研修会が、令和7年度から全国6つの各ブロックそれぞれでの開催に移行することとなりました。今年度初めて九州の第6ブロック単独で実施し、118名の救護員及び指導者が参加しました。

### 1. 災害救護活動の体制及び整備

#### (1) 救護員の体制

災害発生時において被災地の医療の空白を埋めるため、迅速に救護班を派遣して被災者や傷病者を救護する体制として、県内に常備救護班を16班編成し、訓練を受けた職員108人を常備救護班員として登録しています。

#### 常備救護班の編成状況

令和7年4月1日現在

施設名	班数	常備救護班員登録数					計
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	
福岡赤十字病院	12	12	12	24	12	24	84
今津赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
嘉麻赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
計	16	16	16	32	12	32	108

※常備救護班編成基準 医師1人・看護師長1人・看護師2人・主事(事務)2人 計6人  
福岡赤十字病院の救護班のみ薬剤師1人を加えて編成しています。

## (2) 令和7年8月6日からの大雨災害における活動

令和7年8月6日からの大雨により、全国的に人的被害、住家被害が発生しました。福岡県支部では、避難所が開設された県内の地区区分への情報収集や、救援物資の支援要請があった古賀市地区へタオルセット 20 セットの送達を行いました。また、鹿児島県支部からの要請により、緊急セット 270 セットを鹿児島県霧島市へ送達しました。



古賀市職員へ救援物資受渡



鹿児島県霧島市へ救援物資送達

## (3) 救護員の訓練

赤十字の救護員として必要な基礎知識や技術を学び、災害が発生した現場において、救護活動が迅速かつ的確に行えるよう、日本赤十字社救護規則第 13 条に基づき、災害救護訓練を実施しています。

令和7年度は、以下のとおり救護員の育成に努めました。

### ア. 支部主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
救護員育成訓練（共通課程）	5月7日（水） ～5月23日（金）	管内施設	動画視聴形式
救護員育成訓練（総合過程）	6月19日（木）	日本赤十字社福岡県支部	実働形式
災害対策本部要員研修	3月9日（月）	日本赤十字社福岡県支部	講義形式

### イ. 行政等主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
福岡県総合防災訓練	5月25日（日）	那珂川市、春日市	実働形式
福岡県国民保護図上訓練	11月20日（木）	福岡県庁	図上形式
福岡市震災対処訓練	11月21日（金）	福岡市役所	実働形式



トリアージ訓練



関係機関と調整するリエゾン  
(福岡市震災対処訓練)

#### (4) 九州八県支部合同災害救護訓練

本訓練は、日本赤十字社第6ブロック管内における地震発生を想定し、被災県支部災害対策本部機能及び第6ブロック各県支部による支援体制の充実・強化を図ることを目的としています。

今年度は、「南海トラフ地震」の発災を想定し、「日本赤十字社第6ブロック南海トラフ地震対応計画」及び「日本赤十字社宮崎県支部南海トラフ地震受援計画」の検証をコントローラーによる状況付与のもと実働訓練にて実施しました。

開催日：令和7年12月7日（日）～8日（月）

場 所：日本赤十字社宮崎県支部

参加者：36名（内訳：福岡県支部3名、九州他県支部27名、本社救護課3名）



情報整理に努める災害対策本部職員



情報付与を検討するコントローラー

## (5) 第6ブロック赤十字救護班研修会

本研修は、これまで本社主催で実施されてきましたが、研修機会の拡大や訓練の質的向上を目的に、全国6つの各ブロックにて開催することとなりました。今年度は、初めて第6ブロック単独にて開催し、救護員及び指導者の育成強化に努めました。

開催日：令和8年1月31日（土）～2月1日（日）

場 所：久留米赤十字会館

参加者：118名（内訳：受講者47名、指導スタッフ51名、オブザーバー10名、事務局10名）



病院支援訓練



救護活動報告書作成

## (6) 赤十字防災セミナーの実施

日本赤十字社では、人々のいのちをまもるために、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める「防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）」を展開しています。

令和7年度は、年々増加するセミナー依頼に対応するため、防災教育事業指導者養成研修を実施し、新たに15名の指導者を養成しました。

開催内容	開催回数	受講人数
災害への備え	26回	795名
災害エスノグラフィー	6回	148名
災害図上訓練	2回	26名
家具安全対策ゲーム	12回	518名
おうちのキケン	1回	15名
ひなんじょたいけん	6回	225名
その他	2回	47名
計	55回	1,774名



災害図上訓練 (DIG)



ひなんじょたいけん

## 2. 救援物資の配付及び備蓄状況

県内はもとより、隣接県等における広域災害時に備えて、支部救護倉庫、久留米赤十字会館などに救援物資を備蓄しています。

令和7年度に発生した災害等に対して、次のとおり救援物資を配付しました。

### ア. 地区・分区及び他県支部への配付状況

令和8年3月31日現在

毛布 (枚)	北九州市若松区	20
	久留米市	30
	中間市	10
	嘉麻市	10
	苅田町	10
	計	80

緊急セット (組)	北九州市門司区	6
	北九州市若松区	6
	北九州市小倉北区	12
	福岡市東区	6
	福岡市博多区	12
	福岡市早良区	6
	大川市	6
	行橋市	6
	中間市	6
	古賀市	6
	嘉麻市	6
	川崎町	6
	苅田町	6
	鹿児島県支部	270
計	360	

タオルセット（組）	北九州市門司区	20
	福岡市東区	20
	福岡市博多区	20
	久留米市	60
	大川市	20
	古賀市	20
	苅田町	20
	計	180

医薬品セット（組）	北九州市門司区	10
	大牟田市	10
	中間市	10
	計	30

タオルケット（枚）	北九州市若松区	20
	福岡市博多区	10
	大川市	10
	中間市	10
	嘉麻市	10
	新宮町	20
	計	80

#### イ. 備蓄状況

令和8年3月31日現在

物資名	毛布 (枚)	緊急セット (組)	タオルセッ ト(組)	医薬品セッ ト(組)	タオルケッ ト(枚)	安眠セット (組)
在庫数	15,380	4,347	4,079	1,354	9,533	2,376

※在庫数は、地区・分区分置保管数含む

### 3. 災害義援金受付状況（福岡県支部受付分）

国内で甚大な被害が生じた場合に災害義援金の募集を開始し、被災地に設置される義援金配分委員会に全額を届けます。

令和7年度は、令和6年能登半島地震災害義援金をはじめとする以下の義援金を引き続き受け付けました。

令和7年4月1日～令和8年3月31日

義援金名	金額(円)
令和6年能登地方地震災害義援金	5,766,551
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	1,131,561
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	378,690
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	207,845
令和7年台風8号に伴う災害義援金	46,206
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	1,621,750
令和7年台風第12号災害義援金	86,116
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	5,086
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	10,633
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	1,855,309
令和7年青森県東方沖地震義援金	9,186

## 4. 臨時救護

医療救護を必要とする公共性の高い行事、式典等における傷病者の発生に備えて初期救護を行うため、救護員を派遣しています。

令和7年度は、以下のとおり管内施設の医師・看護師等を派遣しました。

### ア. 臨時救護実績

No.	救護名	場所	期日	受診者数
1	第64回福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり	福岡市役所どんたく広場 (明治通り沿い)	5月2日(金) ～5月4日(日)	4名
2	春季慰霊大祭	福岡県護国神社	5月3日(土) 5月4日(日)	0名
3	子ども体験フェスティバルふくおか2025	福岡国際センター	8月20日(水)	2名
4	令和7年度福岡県緑の少年団交流集会	志賀島ビジターセンター	9月20日(土)	0名
5	令和7年度異年齢交流で育て! 青少年育成キャンプ	諫早青少年自然の家	8月6日(水) ～8月10日(日)	11名
6	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター	夜須高原青少年自然の家	8月19日(火) ～8月20日(水)	0名

7	令和7年度福岡県戦没者追悼式	福岡県立福岡武道館	8月15日(金)	0名
8	在宅肢体不自由児等 「山の療育キャンプ」	福岡県立社会教育総合センター	8月7日(木) ～8月8日(金)	5名
9	第30回福岡市障がい者スポーツ大会 (陸上・FD大会)	東平尾公園 博多の森陸上競技場	9月23日(火祝)	3名
10	秋季慰霊大祭	福岡県護国神社	10月12日(日) ～10月13日(月祝)	2名
14	福岡県伐倒技能選手権	福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター	11月4日(火)	0名
15	西区スポーツフェスタ2025	今津運動公園	10月19日(日)	2名
16	地下鉄フェスタ	橋本車両基地	10月26日(日)	4名
17	福岡マラソン2025	福岡市、糸島市	11月9日(日)	56名
18	令和7年度水源の森づくり学習活動	四王寺県民の森	11月23日(日)	1名
21	福岡県日赤紺綬会第65回総会	リーガロイヤルホテル小倉	11月26日(水)	2名
19	第30回福岡市障がい者スポーツ大会 (レクリエーション大会)	福岡市総合体育館	11月22日(土)	0名
22	ふくおか“きずな”フェスティバル	クローバープラザ	2月15日(日)	1名
計				93名

#### イ. 臨時救護派遣救護員実績

施設名	医師	看護師	主事	計
福岡赤十字病院	4	27	2	33
今津赤十字病院	0	6	0	6
嘉麻赤十字病院	0	7	0	7
大寿園	0	1	0	1
やすらぎの郷	0	3	0	3
豊寿園	0	1	0	1
福岡県赤十字血液センター	0	0	0	0
日本赤十字社福岡県支部	0	0	4	4
計	4	45	6	55

## 2 救急法等の講習

赤十字が行う講習は、身近な人を救うためのとっさの手当や日常生活での事故防止をはじめ、乳幼児から高齢者に至るまで幅広いライフステージに応じた健康安全に関する知識や技術の普及を行っています。

令和7年度は、熱中症の重篤化を防止するための労働安全衛生規則が改正され、職場における熱中症対策が義務化された影響もあり、熱中症対策に関する講習依頼が増加しました。

また、講習実施体制の強化を図るため、水上安全法と幼児安全法の指導員養成講習を開催し、講習普及に携わる新規指導員が15人誕生しました。

さらに、当県支部と県内にある赤十字の医療・福祉施設、UR都市機構、明治安田生命と連携し、高齢者支援や地域貢献を行う「地域包括ケア」の取り組みを実施しました。

### 1. 講習実績（総計 496 回 16,756 人）

#### （1）救急法

病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、けが人や急病人を正しく救助して医師または救急隊などに引き継ぐまでの救命手当（心肺蘇生、AEDによる電気ショック、気道異物除去等）や応急手当（急病の対応、止血の仕方、三角巾の使い方、骨折の固定方法等）の知識や技術を普及することを目的に、地域や企業、学校を中心に実施しました。

また、社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会主催の「福岡県聴覚障害者に関する災害フォーラム」に参加し、手話通訳者と要約筆記者の皆さんの協力のもと、聴覚障害のある方を対象とした一次救命処置の講習会を実施しました。

#### 【令和7年度実績】

種別	基礎講習	救急員養成講習	短期講習	計
回数	35	15	230	280
人数	914	374	8,760	10,048



手話で心肺蘇生について説明している様子



三角巾によるきずの手当

## (2) 水上安全法

水の事故から生命を守り、泳ぎの基本と自己保全、溺者の救助、救命・応急手当等、水難救助に関する総合的な知識や技術を普及することを目的に、地域や学校を中心に実施しました。

また、児童・生徒の着衣状態で起きる水の事故を未然に防ぐため、福岡県教育委員会と福岡市教育委員会と協働して、教職員を対象とした着衣泳指導講習を実施しました。

### 【令和7年度実績】

種別	救助員Ⅰ養成講習	短期講習	計
回数	2	43	45
人数	42	2,563	2,605



水中での溺者の搬送



教職員を対象とした着衣泳指導講習

## (3) 健康生活支援講習

住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、自助・互助・共助・公助をふまえて、健康寿命の延伸やお互いに支え合う地域づくりの知識と技術について学ぶことを目的に、地域や学校を中心に実施しました。

### 【令和7年度実績】

種別	支援員養成講習	短期講習	計
回数	4	48	52
人数	62	1,434	1,496



地域における支援活動（ハンドケア実践演習）



車椅子の取り扱いの実践演習

#### （４） 幼児安全法

子どもが家庭や地域で健やかに育っていくよう、子どもの成長・発達に伴う事故の予防と急病の対応、万一に備えての救命・応急手当の知識や技術を普及することを目的に、地域の子育て支援センターや保育所、幼稚園を中心に実施しました。

##### 【令和7年度実績】

種別	支援員養成講習	短期講習	計
回数	6	113	119
人数	101	2,506	2,607



乳幼児の一次救命処置の実技演習



子どもの事故予防と応急手当の実技演習

## 2. 指導員養成講習の開催

赤十字の使命を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実働的な指導員の養成を図ることを目的として、水上安全法並びに幼児安全法の指導員養成講習を日赤職員及びボランティアを対象に開催しました。

各講習で必要な知識や技術を、“人に教える立場”として、どのように伝えるのかを学び、考え、実践しながら、指導員養成講習を終えました。

水上安全法指導員が6人、幼児安全法指導員が9人、新たに誕生しました。



水上安全法新任指導員（6人）



幼児安全法新任指導員（9人）

## 3. 地域包括ケアの推進

日本赤十字社は、赤十字のリソースを地域づくりに活用して、平時は地域の健康と安全、災害時にはその地域づくりが機能する、というように地域包括ケアの推進に取り組んでいます。当支部での取り組みの3本柱として①学校での福祉体験学習を通して、高齢者に寄り添える町づくり、②管内施設と地域講座を通して、地域の健康づくり、③企業や自治体が主催するイベントへ参加し、地域の健康と安全、子育て支援を行うこととしています。

取り組みとしては①学校（9校766名参加）での車椅子体験、白杖アイマスク体験、②福岡赤十字病院でのばりよか講座、③企業（UR 都市機構、明治安田生命）が主催するイベントへ参加しました。また、大野城ふくしフェスティバルでの高齢者疑似体験ブースを実施しました。



イベントでの避難生活支援講習の様子



イベントでの一次救命処置の様子

### 3 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の世界共通の実践目標と、「気づき、考え、実行する」という態度目標のもと、各加盟校（園）の教職員が指導者となり、学校教育の現場において様々な活動を展開しています。

#### 1. 青少年赤十字活動の活性化

##### (1) 第18回青少年赤十字福岡県大会

青少年赤十字加盟校のメンバーや指導者の親睦、資質向上、意識の高揚をはかり、青少年赤十字活動のさらなる充実と発展を目的として、3年に1度開催しています。今回から青少年赤十字の普及を目的に、保護者による引率のもと加盟校（園）以外の児童・生徒の参加も受け付けました。

日 時： 令和7年11月22日（土）

場 所： 福岡市立大楠小学校・日本赤十字社福岡県支部

内 容： ・開会行事  
・表彰（加盟校、指導者）  
・非常食体験  
・ブース型実践報告  
・体験学習（救護倉庫見学、防災セミナー・救急法・トレセン体験）  
・閉会行事（大会宣言）

参加者： 参加者（99名）指導者・スタッフ（45名）



表彰式



ブース型実践報告



非常食体験



体験学習（救急法）

## (2) 青少年赤十字の活動支援

子供たちの自ら学び、自ら考える力の育成に役立つ出前授業を行い、加盟校の活動を支援しました。

### ア. 学校等からの依頼により職員を派遣した講習や行事

支部見学等の受入、総合的な学習の時間や加盟校の学内安全講習等において、救急法や水上安全法をはじめとした出前授業の講師派遣を行いました。

内容	対象者	回数（対象者数）	備考
加盟登録式・更新式	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者	40回（16,075名）	メンバーとしての自覚を新たにす ため、毎年学校ごとに実施
救急法、水上安全法（着衣泳）幼児安 全法、健康生活支援講習（福祉体験）	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者	178回（9,786名）	救急法短期講習、水上安全法など ※加盟・未加盟校問わず掲載
青少年赤十字サポート・プログラム 防災学習や災害時に役に立つ体験、非常食体験など	小・中・高等学校メン バー、指導者、保護者	21回（1,422名）	赤十字職員をゲストティーチャーと して派遣



JRC 加盟登録更新式



小学校での救急法講習

### イ. 青少年赤十字研究推進校指定

令和5～7年度 大野城市立月の浦小学校

研究主題 気づき、考え、実行する子供の育成～課題意識を大切にした単元構成の工夫を通して～

発表会：令和7年12月4日（木）

参加者：約100名

内 容：公開授業、研究構想説明、講評、講演



研究発表会



公開授業（日赤ゲストティーチャー）

### ウ. 青少年赤十字活動実践校

県内の青少年赤十字加盟校（園）の中から、特色ある活動を実践している学校（園）に活動助成金（奨励金）を交付し、同校（園）の取り組みを支援すると共に、他校（園）への情報提供及び県内の

青少年赤十字活動の振興拡充を図っています。

令和7年度の実践校（3校）

学校名	主題名・副題名
うきは市立山春小学校	まもるいのち ひろめるぼうさい ・溺れたときにどうしたらいいだろう ・災害がおきたときにどのような行動をとればいいだろう
学校法人大和学園 大和青藍高等学校	防災学習 ～看護科生徒が提案する防災食～
筑紫野市立天拝小学校	思いやり・やさしさを育てる VS 活動 ～「気づき」・「考え」・「実行する」ための掲示板の活用を通して～

## （2）防災教育の推進

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用度向上や防災教育の推進のため、学校において、防災教育を行いました。

学校等における防災教室実施状況

学校名	対象人数	学校名	対象人数	
八女市立矢部清流学園	23	太刀洗町立大堰小学校	48	
福岡市立東光小学校	60	うきは市立山春小学校	45	
朝倉市立秋月小学校	18	福岡市立大楠小学校	4年生 (講義)	64
宇美町立宇美東中学校	351		4年生 (倉庫見学)	64
志免町立志免東小学校	94	福岡市立日佐小学校	65	
大野城市立月の浦小学校	76	福岡インターナショナルスクール	39	
		合計	11校	947



小学校での防災教室



救護倉庫見学

## （3）青少年赤十字メンバーの育成

他校のメンバーとの交流も行いながら、赤十字やリーダーシップ等について学ぶことができる研修会や国際交流事業を行いました。

## ア. 本社主催

行事の名称	実施日	対象	内容	場所	参加者数
青少年赤十字スタディー・センター	3月22日～26日	高校生	リーダーの養成を図るためのプログラム。 社会的包摂に関する体験学習	東照館	当県支部メンバー1名

## イ. 支部主催

行事の名称	実施日	対象	内容	場所または開催形態	参加者数
第1回高校連絡協議会	6月14日	高校生	・学校紹介、活動紹介 ・スタディー・プログラム参加報告 ・各学校での取組好事例の発表 ・今後の活動に関する全体討議	当県支部	メンバー 21名 指導者 6名
高校連絡協議会総会	8月23日	高校生	・規約、スローガンの確認 ・役員改選、新役員挨拶 ・今年度の活動に関する協議 ・防災に関する学習	当県支部	メンバー 24名 指導者 8名
リーダーシップ・トレーニング・センター	8月19日～20日	小学生 中学生 高校生	・赤十字に関する学習 ・ワークショップ ・救急法等	国立夜須高原青少年自然の家	メンバー 38名 指導スタッフ 11名 引率等教員 1名 賛助奉仕団 7名 青年奉仕団 7名
第2回高校連絡協議会・全国学生献血クリスマスキャンペーン2025	12月21日	高校生	・献血についての学習 ・献血推進活動の準備品作成 ・全国学生クリスマス献血キャンペーン2025	当県支部 福岡市西側ふれあい広場等	メンバー 16名 指導者 7名
高校連絡協議会年度末集会	3月7日	高校生	・卒業生を送る会 ・今年度活動振り返り ・青年赤十字奉仕団の活動紹介 ・海外の赤十字社調べ学習、発表	当県支部	メンバー 28名 指導者 7名



リーダーシップ・トレーニング・センター



高校連絡協議会（献血呼びかけ）

## ウ. 国際交流事業

青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として、姉妹協定を締結している大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバーと毎年交互に訪問・受入を実施しています。

令和7年度は、当県支部青少年赤十字メンバーがホストファミリーとして同支社の RCY メンバーのホームステイ受入を実施しました。

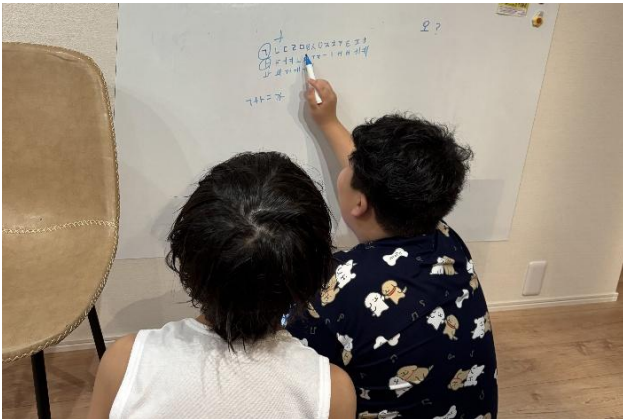
期間	受入場所	受入人数
令和7年7月18日(金)～21日(月)	大野城市立月の浦小学校	7名



学校内での交流の様子



歓迎式



互いの言語を教えている様子



思い出アルバム交換

#### (4) 青少年赤十字加盟校から寄せられた義援金・救援金

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の一環として、多くの加盟校で、相次ぐ自然災害のための義援金・救援金の募金活動に取り組み、たくさんの心温まる寄付をいただきました。令和7年度の青少年赤十字加盟校からの寄託金合計額は、196,371円となりました。

No.	義援金・救援金等名称	学校名
1	赤十字活動資金	久留米市立川会小学校
		西南学院高等学校
		福岡県立柏陵高等学校
2	令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	大野城市立月の浦小学校
		朝倉市立蜷城小学校
3	令和6年能登半島地震災害義援金	宗像市立地島小学校
		地島ゆりの樹幼稚園
4	令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模開催義援金	朝倉市立蜷城小学校
		筑紫野市立天拝小学校
5	ウクライナ人道危機救援金	筑紫野市立天拝小学校
6	イラン及び周辺国人道危機救援金	朝倉市立蜷城小学校
	合計	196,371円

## (5) 青少年赤十字指導者の養成講習会等の開催

各加盟校（園）においては、教職員が指導者となって、児童・生徒とともに活動に取り組みます。そのため、活動への理解がより深まるように指導者を対象とした各種の講習会を開催しています。令和7年度は、熊本県にて開催された九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会に参加したほか、県青少年赤十字研究会をハイブリット形式で開催しました。

実施日	講習会等の名称	参加者数
8月4日～5日	福岡県赤十字指導者養成講習会	26名
8月19日～20日	九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	2名
2月16日	福岡県青少年赤十字研究会	78名

## 2. 青少年赤十字の普及（積極的な加盟促進）

加盟促進については、新規加盟勧奨活動を継続的に行った結果、令和7年度は保育園1園、小学校2校・中等教育学校1校、高等学校1校、合わせて5校・園が新たに加盟し、県内の加盟校は420校となりました。

令和8年3月31日現在

教育行政区分 ※但、私学を含む	市・区・郡	保育・幼稚園	認定こども園	小学校	中学校 (義務教育学校 数)	義務教育 学校	高等学校	特別支援 学校	通信制	中等教育学校	各種学校	合計
		園数(園)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)
福岡市 教育委員会	東区・博多区・中央区・ 南区・城南区・早良区・西 区	6	1	78	7	0	19	5	1	1	1	119
北九州市 教育委員会	門司区・小倉北区・ 小倉南区・若松区・ 八幡東区・八幡西区・ 戸畑区	10	0	35	11	0	5	0	0	0	0	61
福岡 教育事務所	春日市・大野城市・ 筑紫野市・太宰府市・ 那珂川市・糸島市・ 古賀市・宗像市・ 福津市・糟屋郡	3	2	58	17	0	6	0	0	0	0	86
北九州 教育事務所	中間市・直方市・ 宮若市・遠賀郡・鞍手郡	7	0	21	6	0	3	0	0	0	0	37
北筑後 教育事務所	朝倉市・久留米市・ うきは市・朝倉郡・ 三井郡	0	0	24	2	0	0	0	0	0	0	26
南筑後 教育事務所	大川市・八女市・ 筑後市・柳川市・ みやま市・大牟田市・ 三潴郡	0	0	36	4	3	2	0	0	0	0	45
筑豊 教育事務所	飯塚市・嘉麻市・ 田川市・田川郡	4	0	23	8	0	3	0	0	0	0	38
京築 教育事務所	行橋市・豊前市・ 京都郡	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8
合計	28市・8郡 (21町村)	30	3	275	63	3	38	5	1	1	1	420

※加盟の形態は、全校加盟・学年加盟・学級加盟・クラブ加盟があります。

## 令和7年度新規加盟登録校

学校法人折尾愛真学園 折尾愛真高等学校  
 学校法人 上智学院上智福岡中学高等学校  
 篠栗町立篠栗小学校 萩尾分校  
 福岡市立弥永小学校  
 おおはし保育園

(以上 5校・園)

## 4 国際活動

赤十字の国際活動は、赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の連携のもと、191の国と地域に広がる赤十字のネットワークにより「緊急救援」「復興支援」「開発協力」等を行っています。

令和7年度は、引き続き各国赤十字社と国際赤十字・赤新月社連盟が実施する「ウクライナ人道危機救援金」の募集をはじめとした救援・復興活動を支援するための人道危機等救援金や災害救援金の募集を行いました。

また、国際活動への参加促進と社業への反映、職員の知見の国際活動への活用を目的とした本社主催の開発協力事業に福岡県支部から職員を2名派遣しました。

### 1. 国際活動の参加

#### (1) 国際救援金受付

日本赤十字社では、国外において突発的に発生した大規模な自然災害や武力紛争等の人道危機などに支援する救援金を募集しました。

特に、令和7年3月28日（金）ミャンマー中部で発生したマグニチュード7.7と6.7の2つ大地震により、住宅や学校、病院を含む多くの建物が崩壊し、多数の犠牲者が報告されたことから、日本赤十字社では、ミャンマー赤十字社及びタイ赤十字社が行う救援・復興支援活動を支援するため「2025年ミャンマー地震救援金」の募集を開始しました。



負傷者を抱きかかえるミャンマー赤十字社  
スタッフ©ミャンマー赤十字社



負傷者の応急処置や近隣病院へ搬送を行う  
©ミャンマー赤十字社

救援金名	金額(円)
ウクライナ人道危機救援金	2,299,381
中東人道危機救援金	58,033
バングラデシュ南部避難民救援金	33,917
2025年アフガニスタン地震救援金	8,748
2025年パキスタン洪水救援金	1,984

2025年ミャンマー地震救援金	1,577,422
イラン及び周辺国人道危機救援金	20,000
無指定海外救援金	69,297
「NHK海外たすけあい」寄付金	21,771,284

## (2) 開発協力事業地への支部職員研修派遣

コミュニティー（地域社会）のニーズや脆弱性、そして強みを理解し、そこに暮らす人々を中心に捉えてレジリエンス（回復力）を強化することを目指して、日本赤十字社では、「自然災害への備え」と「疾病の予防」の2つに焦点をあてた開発協力事業を展開しています。今年度は、本事業へ福岡県支部職員を派遣しました。

### ア. インドネシア防災強化事業

インドネシア赤十字社とともに、巨大地震のリスクが指摘されるジャワ島において、学校と地域のレジリエンス（回復力）強化に寄与するため、防災事業として、学校防災、村落防災、そしてインドネシア赤十字社の事業実施基盤の強化に取り組みました。

派遣先：インドネシア共和国

派遣者：日本赤十字社福岡県支部 事業課 山本 照久

派遣期間：令和7年11月9日（日）～令和7年11月15日（土）



大雨による被災地視察



小学校で防災教室

### イ. アジア大洋州地域給水・衛生災害対応キット整備事業

国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）と協働でアジア大洋州地域の国々に向けた給水・衛生災害対応キットの配備事業を行っています。同キットには災害時に効果的に給水や衛生活動を展開できるようにタンクや浄水剤、水質検査キット、簡易トイレ設置用資材、衛生教育用資材などが含まれており、キットを活用した救援活動を現地スタッフやボランティアが行えるよう、研修等を行いました。

派遣先：インドネシア共和国

派遣者：日本赤十字社福岡県支部 組織振興課 田中 萌笑

派遣期間：令和7年10月22日（水）～令和7年10月28日（火）



小学校で衛生指導



活動報告会

### （3）国際救援・開発協力要員派遣事業

本社と連携のもと、国際赤十字が行う救援・開発プロジェクトに対して、国際救援・開発協力要員を派遣しました。

#### ア. パレスチナ赤新月社医療支援事業

平成30年4月より、パレスチナ赤新月社と協力し、技術支援を行ってきたパレスチナ赤新月社の病院へのフォローアップを目的としてパレスチナ赤新月社レバノン支部が運営する病院でのエコー診断の医療技術指導を行いました。

派遣先：レバノン共和国

派遣者：福岡赤十字病院 外科医師 松田 圭央

派遣期間：令和7年11月27日（木）～令和7年12月21日（日）



#### イ. 国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム保健支援事業

国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム4カ国の赤十字社への保健戦略等の策定支援、各種事業の管理、連盟等が行う研修や会議の調整・運営、その他保健分野での支援・助言と企画・調整を行っています。

派遣先：タイ王国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師 前澤 裕未

派遣期間：令和7年8月16日（土）～令和8年12月13日（日）



#### ウ. 国際赤十字・赤新月社連盟パプアニューギニア国事業支援

国際赤十字・赤新月社連盟パプアニューギニア国事務所及びパプアニューギニア赤十字社が実施する事業の管理業務補佐として、計画立案、モニタリング、会計業務等を行いました。

派遣先：パプアニューギニア独立国

派遣者：福岡赤十字病院 経営企画課 北原 一希

派遣期間：令和7年4月17日（木）～令和7年9月18日（木）



## 5 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織です。地域に根差した活動を行う「地域奉仕団」、専門知識や技術を活かした「特殊奉仕団」、そして若い力と行動力で社会に貢献する「青年奉仕団」の3つがあります。

### 1. 奉仕団の活動状況

#### (1) 地域赤十字奉仕団

##### ア. 地域赤十字奉仕団員数（令和7年度）

奉仕団数 (団)	団員数(人)		
	男	女	計
22	1,684	3,174	4,858

##### イ. 活動状況

###### (ア) 防災に関する活動：11 団

地域で開催される防災訓練に参加し、炊き出しを行い、災害時に備えた活動をしました。

###### (イ) 地域福祉に関する活動：14 団

清掃活動のほか、独居老人宅を訪問などの住民福祉向上のための、心のこもった活動を実施しました。

###### (ウ) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動：10 団

青少年赤十字は、保育園・幼稚園、小学校・中学校・高等学校の教育の場で展開されており、奉仕団においても、青少年の健全育成を目的とした学校行事（青少年赤十字加盟登録式・入学式・卒業式等）への参加、普及活動、登校時の挨拶運動や防犯活動を推進しています。

###### (エ) 救急法、健康生活支援講習等講習普及に関する活動：9 団

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい知識と技術を習得する救急法講習会や健康管理、地域での高齢者支援等を学ぶ健康生活支援講習を開催し、団員自身が研修会等で受講するとともに、地域住民への普及に努めました。

###### (オ) 献血推進に関する活動：8 団

地域や街頭で実施する献血活動に際し、献血への協力呼びかけ等を行いました。

###### (カ) 義援金及び救援金への募金：4 団

「令和6年能登半島地震義援金」等への募金活動を行いました。

###### (キ) 赤十字会員増強に関する活動：8 団

地域に根差した活動の一環として、活動資金の募集にもご協力いただきました。

区 分	奉仕団による実績 (A)	地区分区が募集する活動資金実績 (B)	奉仕団の募集実績比率 (A/B)
令和 6 年度	13,701,048 円	329,770,946 円	4.2%
令和 7 年度	12,779,357 円	342,240,993 円	3.7%

## (2) 青年奉仕団

### ア. 福岡県青年赤十字奉仕団

平成 31 年 3 月、福岡県青少年赤十字高校連絡協議会卒業生メンバーを中心に再結成された奉仕団です。令和 7 年度は、福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター、高校連絡協議会などにボランティアとして参加し、青少年赤十字活動をサポートしました。また、新たに子ども食堂での活動も始まり、子ども達の見守りなどの活動を行っています。

### イ. 日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団

日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団は、同大学のボランティアサークルで構成されており、現在は「学生献血推進協議会」を母体として活動しています。令和 7 年度は、主に献血の啓発活動を行いました。

## (3) 特殊奉仕団

### ア. 日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会

防災ボランティア会は、個人単位で活動に参加していたボランティアを組織化し、設立された防災ボランティア団体です。地域住民に向けた防災セミナーの実施や県防災訓練でのボランティアセンター運営訓練に協力するなど防災意識の向上や知識の普及活動をしています。

### イ. 福岡赤十字病院奉仕団

福岡赤十字病院の外来患者の受付案内、車いす補助等、心のこもった奉仕団活動を行いました。

### ウ. 赤十字看護（介護）奉仕団 10 団

各地域の福祉施設において、移動介助やシーツ交換、傾聴ボランティア等、利用者さんの笑顔に繋がるような温かい支援を行っています。

### エ. 福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」

「献血ルームおっしょい博多」でハンドマッサージの活動を行い、献血者に対し心温まる奉仕活動を実施しています。

### オ. 安全奉仕団

赤十字救急法や水上安全法指導員の資格を有するボランティアで組織され、人々の安全と健康を守るための救急法や水上安全法などの講習を行い、普及活動に努めています。

#### カ. 福岡県青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字活動の普及発展及び加盟促進を目的として、青少年赤十字指導者協議会のOBで結成された奉仕団です。リーダーシップ・トレーニング・センターの運営支援や加盟校への情報誌発送作業を行いました。

#### キ. 福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団

打撲、捻挫、挫傷（筋、腱の損傷）、骨折、脱臼などの施術を行う柔道整復師の免許を有するの方々によって、災害救護や保健衛生等に関する奉仕活動を目的に結成された奉仕団です。令和2年度から団員が運営する施術所に募金箱等を設置し、集められた募金を活動資金として寄付し、当県支部の支援活動を行っています。

#### ク. 特別養護老人ホーム大寿園赤十字奉仕団「むくの木」

大寿園で活動を行っていた個々のボランティア同士が結束することによって更なる活動の充実を目指すことを目的として結成されました。業務補助として利用者の外出補助等を行っています。

#### ケ. 福岡県赤十字無線奉仕団

無線奉仕団は、アマチュア無線の愛好家で組織された奉仕団で、アマチュア無線の技術と経験を活かして活動を行っています。当県支部と全国の支部が災害時に円滑に無線通信ができるよう通信訓練を行いました。

#### コ. 福岡赤十字病院音楽奉仕団

福岡赤十字病院の患者さんやそのご家族の方々等に、病院で少しでも気持ちよく過ごしていただくため、音楽の楽しさをお届けするコンサートの企画・運営を行うために結成された奉仕団です。トワイライトコンサートを開催し、患者さんや地域住民の方々に音楽のいやしを提供し、大好評でした。

### (4) ボランティア活動充実のための取組

#### ア. ボランティア DAY2025 における活動：17 団

例年、5月8日の世界赤十字デーを中心に清掃活動等地域のニーズにあった活動を実施しています。地域のニーズにあわせた活動を実施しました。

#### イ. 本社・ブロック主催研修

地域に根ざした存在である赤十字ボランティアが主体的に赤十字事業に参画し、世代や分野を超えて連携し、活動を実施していくための研修会に参加しました。

実施日	行事名	場 所	参加者数
8月23日～25日	赤十字ボランティア・リーダー研修会	本社	1名

#### ウ. 地域・特殊・青年赤十字奉仕団 委員長会議

地域・特殊・青年赤十字奉仕団合同で奉仕団委員長会議を実施しました。奉仕団同士で課題や好事例を共有し、相互の連携を強化するとともに、奉仕団活動のさらなる充実・強化に向けて意見交換を行いました。

## エ. 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会

地域・特殊赤十字奉仕団合同で赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会を実施しました。グループワークを通じて、赤十字運動に必要なリーダーシップについて理解を深めるとともに、常に活気のある奉仕団を維持するための望ましいリーダー像について意見交換を行いました。



グループワークの様子



グループごとに意見交換をしている様子

## オ. 奉仕団広報撮影：11団

奉仕団活動の「見える化」を目的として、奉仕団の活動場所を訪問し撮影を行いました。撮影した内容は当支部のホームページや SNS へ掲載し、広報活動への充実に結びました。



福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」



福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団

## 2. 大韓赤十字社釜山広域市支社奉仕会員との交歓研修会

昭和 50 年 8 月大韓赤十字社釜山広域市支社と本県支部は姉妹協定を締結し、親善友好を深めています。令和 7 年度は、姉妹協定の締結から 50 周年という節目の年を迎え、5 月 20 日～23 日までの 4 日間、福岡県赤十字奉仕団員等 7 名が釜山へ訪韓し、交歓研修会を行ったほか、釜山赤十字奉仕団の製パン体験や献血ルームの視察を行うなど相互理解を深めました。



大韓赤十字奉仕団と交流



釜山支社の献血ルームを視察

### 特殊赤十字奉仕団/青年赤十字奉仕団結成状況

区 分	奉 仕 団 名	結成年月日	委員長名	団員数（人）
防 災 ボ ラ ン テ ィ ア	日本赤十字社福岡県支部 防災ボランティア会	H25. 7. 27	平 山 光 典	23
病 院 奉 仕 団	福岡赤十字病院奉仕団	S59. 10. 9	池 田 政 子	27
看 護（介 護）奉 仕 団	篠栗町赤十字老人看護奉仕団 「ふれあい会」	S62. 2. 27	廣 瀬 厚 子	34
	浮羽町赤十字老人看護奉仕団 「あいの会」	H 3. 9. 12	渕 上 正 子	58
	直方市赤十字老人看護奉仕団 「胞子の会」	H 4. 8. 18	古 賀 章 子	24
	北九州赤十字看護奉仕団 「じゅんの会」	H 9. 7. 9	国 島 ふさ子	9
	福岡赤十字介護奉仕団 「ひまわりの会」	H 9. 7. 16	吹 野 正 義	3
	志免町赤十字介護奉仕団 「ふきのとう」	H10. 4. 15	財 部 美佐子	15
	川崎町赤十字介護奉仕団 「ぎんなんの会」	H12. 10. 16	松 岡 久 代	25
	今津赤十字病院介護奉仕団 「しおさい」	H14. 3. 23	山 本 育 子	8
	久留米赤十字介護奉仕団 「みやびな会」	H15. 4. 16	松 嶋 恵美子	3
	嘉麻赤十字介護奉仕団 「サルビアの会」	H15. 4. 19	松 岡 良 子	5
いやしのケア奉仕団	福岡県いやしのケア 赤十字奉仕団「なごみ」	H10. 6. 15	津 田 和 美	25
安 全 奉 仕 団	救急法普及委員会	S45. 4. 1	佐 藤 茂 夫	46
	水上安全法普及委員会	S45. 4. 1	中 村 成 也	53
賛 助 奉 仕 団	福岡県青少年赤十字賛助奉仕団	H19. 6. 1	三 亀 幹 治	42
柔道整復師会奉仕団	福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団	H21. 4. 1	塩 川 哲 也	584
赤 十 字 奉 仕 団	大寿園赤十字奉仕団「むくの木」	H26. 3. 10	南 嘉 子	12
無 線 奉 仕 団	福岡県無線赤十字奉仕団	H26. 4. 11	橋 爪 兼 続	16
芸 能 奉 仕 団	福岡赤十字病院音楽奉仕団	H31. 3. 29	寺 坂 禮 治	14
青 年 奉 仕 団	日本赤十字九州国際看護大学 学生奉仕団	H14. 5. 27	古 莊 凜	50
	福岡県青年赤十字奉仕団	H31. 3. 29	植 松 香 恋	30
計		22 団体		1, 106

## 6 活動資金の募集

当県支部の多岐にわたる赤十字活動は、毎年、県民の皆様から寄せられる活動資金によって支えられています。地域奉仕者や自治会を通じた戸別訪問等の協力に加え、近年はクレジットカード寄付等の普及により、さらに幅広い層から善意を頂戴しております。

令和7年度は遺贈や相続財産等の高額寄付のほか、多くの会員の皆様からも格別なご協力を賜ることができました。

また、赤十字思想の普及を目的とした「全国赤十字大会」が、名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下の御臨席を賜り開催されました。併せて、名誉副総裁三笠宮寛仁親王妃信子殿下を北九州市に6年ぶりにお迎えし、「福岡県日赤紺綬会創立65周年記念総会」を盛大に執り行いました。

### 1. 個人会員と活動資金の募集

例年、地区・分区分管内の赤十字奉仕者や自治会・町内会等の皆様のご協力を得て、会員制度の周知と赤十字活動への理解促進に努めております。令和7年度は、地域コミュニティを通じた活動が厳しい状況にありましたが、活動を周知する新たなルートとして、大手百貨店系列の定期宅配サービスを活用し、配送箱へ活動案内の同梱を実施いたしました。これにより、従来の活動では接点が持ちにくかった層へも広く活動を伝えることができ、利便性の高いクレジットカードによる活動資金の協力増加へと繋がりました。

また、市町村配布の広報チラシに振込用紙を一体化する改善を行いました。活動内容を知っていただいた後、そのままスムーズにお手続きいただけるよう利便性を高めたことが、多くの方々のご協力を繋がりました。お手間を減らす工夫を凝らしたことで、皆様の温かな善意をより確実な形で活動へとお寄せいただくことができました。

### 2. 法人会員と活動資金の募集

毎年、法人会員の皆様へダイレクトメールを通じて活動資金の協力を依頼しています。これに併せて「特別勸奨班」を組織し、主に未協力の法人を直接訪問して協力を仰ぐ「法人勸奨」を継続して実施しています。

新規開拓においては、最新の企業データベースや営業支援システムを活用し、活動への親和性が高い優良企業の抽出を行いました。特に過去、寄付実績の高い建築・不動産業界を重点対象とし、システムから得られた精度の高いデータに基づく戦略的なダイレクトメール送付を行うことで、効率的な周知活動を展開しました。

また、ご紹介により、九州ビルディング協会にて卓話の機会をいただきました。同協会に所属する不動産関連会社の幹部の方に対し、赤十字活動への参画が企業のCSRやSDGs達成に大きく寄与する旨のプレゼンテーションを実施するなど、対面での深い理解促進と協力依頼に努めました。

さらに、企業のブランディング向上を目的とした提案も積極的に進めております。持続可能な社会貢献を可能にする独自のメニューや、赤十字支援マークを活用した商品の開発を提案いたしました。

このほか、支援型自動販売機の設置やチャリティボックスの活用など、企業のニーズに応じた多彩なメニューを丁寧にご案内し、赤十字支援の裾野を広げる広報活動に取り組んでいます。

### 3. 活動資金募集実績

#### (1) 活動資金募集実績（一般・法人）

目標額(円)		実績額(円)	件数	達成率(%)	計	達成率(%)
500,000,000	一般	425,000,000	462,247,188	6,911	534,284,672	106.8
	法人	75,000,000	72,037,484	1,202		

#### (2) 活動資金募集実績（地区・支部）

目標額(円)		実績額(円)	達成率(%)	計	達成率(%)	
500,000,000	地区	440,000,000	370,942,560	84.3	534,284,672	106.8
	支部	60,000,000	163,342,112	272.2		

#### (3) 高額活動資金実績（1件50万円以上）

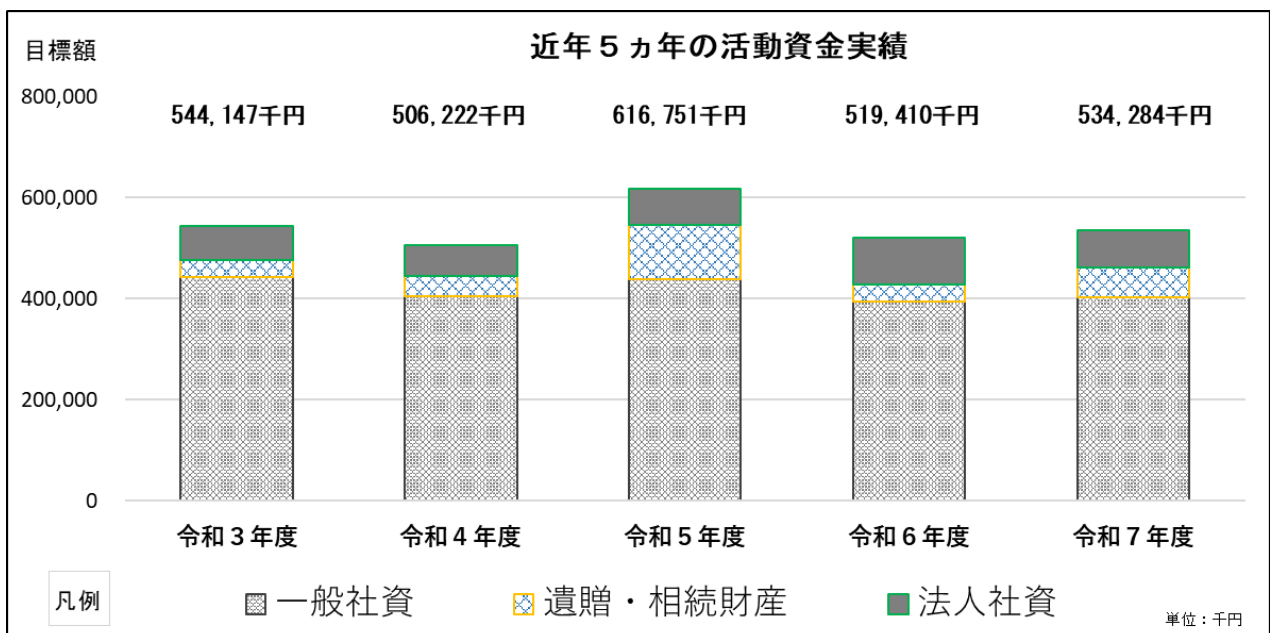
実績額(円)	内訳(円)		件数	合計件数
185,919,508	一般	138,293,450	73	106
	法人	47,626,058	33	

※一般社資実績額に遺贈2件（30,000,000円）、相続財産寄付6件（29,300,000円）を含む。

#### (4) 遺贈・相続財産寄付実績

遺贈		相続財産寄付		計	件数
件数	実績額(円)	件数	実績額(円)	59,300,000	8
2	30,000,000	6	29,300,000		

#### (5) 赤十字活動資金実績の推移（5年間）



## (6) 赤十字会員数（一般・法人）

令和8年3月31日現在

会員数（計）	一般会員	法人会員
3,673	3,053	620

## 4. 募金箱、寄付金付き商品及び寄付金付自動販売機による活動資金募集実績

令和7年度における企業・団体等の社会貢献事業（CSR活動）・持続可能な開発目標（SDGs）達成への取り組みとして、当県支部は寄付金付自動販売機設置の推進を図るとともに、寄付金付き商品による赤十字活動資金への協力を促進しました。今後とも企業団体等が検討する社会貢献活動の一環として、赤十字活動への理解と協力が得られるよう、連携を強化していきます。

### (1) チャリティ募金箱による活動資金募集実績

団体名	募金箱設置数	実績額(円)	摘要
公益社団法人 福岡県柔道整復師会	56箇所	96,229	
福岡県内農業協同組合	9箇所	145,563	9単協内に募金箱設置
有限会社 直方メディカルサービス	1箇所	107,913	
福岡国際空港	2箇所	216,941	
その他		660,349	
計		1,010,054	

### (2) 寄付付き商品による活動資金募集実績

団体名	期間	実績額(円)	摘要
福岡ソフトバンクホークス株式会社	4月14日～1月11日	805,846	ファイト！九州タカポイント募金
日本ハムマーケティング株式会社	11月1日～1月31日	5,757	お歳暮ギフトの売上の一部
ブックオフコーポレーション株式会社	4月1日～3月31日	343	本などの買取金額
合同会社リアークス	4月1日～3月31日	6,165	歯みがきシートの売上の一部
日本生命保険相互会社	7月28日～3月15日	854,360	健康サポートアンケート回答による寄付（「につせーのせ！地域振興寄付金」）
計		1,672,471	

### (3) 寄付付き自動販売機による活動資金募集実績

寄付金付き自動販売機設置台数 30台、寄付額 1,405,647円(令和8年3月31日現在)

赤十字の使命や活動を一人でも多くの方々に理解していただくため、様々な広報活動を展開しました。

外部団体へのイベントに積極的に参加するほか、当県支部主催のイベントを実施し、支部の活動を幅広い層へPRすることに努めました。

令和7年度は、当県支部主催のイベントを例年と異なる大牟田市において実施し、知名度のある出演者の招聘により集客力の向上を図りました。

## 1. 赤十字運動月間の取り組み

### (1) レッドライトアッププロジェクトの実施

令和7年度で10回目を迎える日本赤十字社の全社的プロジェクトで、「人道」の歴史に思いをはせるとともに、理解を深めていただくことを目的とし、各都道府県のシンボルとなる歴史的建造物やランドマークを赤くライトアップします。

令和7年度は、例年実施している県内3か所（福岡市赤煉瓦文化館、旧福岡県公会堂貴賓館、三池炭鉱宮原坑）に加え、新たに「博多ポートタワー」でも実施しました。

### (2) 福岡市天神地区のポスター広告等を出稿

令和7年度より、活動資金の募集に合わせて、活動実施場所である西鉄福岡（天神）駅コンコースにポスター広告を掲示し、より視覚的に不特定多数の方々にアプローチをかける広報展開を行いました。



レッドライトプロジェクトの実施  
(博多ポートタワー)



福岡(天神)駅 コンコースフラッグ

## 2. マスメディアとの連携

地元放送局とタイアップし、災害時の救護活動や救急法等の講習などの赤十字活動を取り上げてもらうことで、防災・減災意識の向上を図るとともに、日本赤十字社の認知度向上に努めました。

### 主な内容

- ア 赤十字×KBC 防災出前授業の実施（テレビ収録）
- イ 赤十字事業についての紹介（テレビ中継、ラジオ収録、インターネット）
- ウ 救急法等の講習内容について情報番組での活動紹介（テレビ収録）
- エ 年間を通じた福岡県支部の活動についての配信（インターネットニュース）
- オ イベント開催の告知（テレビ生出演 30秒PR）



赤十字×KBC 防災出前授業



講習普及事業の紹介（テレビ収録）



災害救護活動についての紹介（テレビ中継）



赤十字事業についての紹介（ラジオ収録）

### 3. 広報資材を活用したイベントの開催

各市区町村や外部団体主催の市民参加型イベント内で、赤十字事業紹介パネルや救援物資などを展示することで、赤十字活動を理解していただけるようPRを行いました。

また、当県支部主催の広報啓発イベントを開催し、幅広い層への周知を目的に、認知度の高いタレントを起用したステージ等を実施しました。加えて、開催地を大牟田市とすることで、県内各地域への情報発信の拡大につなげました。



支部主催広報啓発イベントの実施  
(防災フェスティバル)



外部団体主催イベントの様子  
(いえづくり博覧会)

### 4. 広報資材の配布等

#### (1) 活動資金募集チラシなど

地区区分を通じて、広報資材を各家庭やボランティアの方々に次のとおり配布しました。

配布資材

・活動資金募集チラシ	520,820部
・リーフレット	6,360部
・赤十字会員募集のしおり	15,296部
・ポスター（B2、B3、A3、A4）	7,074部

#### (2) 赤十字新聞

当社が毎月1日に発行する赤十字新聞を、県内の全地区区分および赤十字関係者へ毎月約3,000部配布しました。

#### (3) ソーシャルメディアを活用した情報発信

当県支部の活動やイベント情報等をより多くの方々にリアルタイムでお届けできるようにInstagram、X（旧Twitter）、YouTubeの公式アカウントを開設・運用し、情報発信を行いました。

特にInstagramにおいては、視認性や訴求力を重視した内容を心がけ、発信力の向上に努めました。

## 8 看護師等の養成

日本赤十字社が行う看護師養成は、130年以上にわたる長い歴史と伝統を持つ重要な事業であり、災害時に活躍できる看護師を育成しています。全国には9つの専門学校のほか、学校法人日本赤十字学園が開設する6つの看護大学があり、その一つが日本赤十字九州国際看護大学です。

大学には、学部および大学院研究科（修士課程・博士課程）を合わせて約460名の学生が在籍しており、これまでに約2,300名の看護職者を輩出しています。授業では、シミュレーション教育やVR、模擬カルテなどを活用した体験型学習を導入し、学生の主体的な学びをサポートしています。

今後も、看護に関する幅広い知識と高度な技術能力を備え、赤十字の理念である「人間のいのちと健康、尊厳を守る」担い手として、地域社会に貢献し、国際的に活躍できる人材の育成に取り組んでいきます。

### 日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

#### ア. 卒業生・修了生の進路状況

赤十字の基本理念である「人道」を基調としながら、災害救護活動、国際救援活動など社会に貢献するとともに、国や文化の枠を超えて人々の健康や福祉向上のための高度な看護技術と国際性を兼備えた人材を養成しています。

令和7年度、学部においては98名の卒業生を、大学院においては修了生15名を、社会に送り出しました。



#### 看護学部 卒業生 進路状況

卒業生数		98
内 訳	赤十字施設就職者数	47 (48.0%)
	赤十字以外就職者数	40 (40.8%)
	進 学 者 数	6 (6.1%)
	そ の 他	5 (5.1%)

( ) 卒業生全体に占める対象者の割合

#### 大学院 修了生 進路状況

修了生数		15
内 訳	医療機関就職者数	13 (86.7%)
	(うち赤十字施設)	2 (13.3%)
	教育機関就職者数	2 (13.3%)
	そ の 他	0 (0.0%)

( ) 修了生全体に占める対象者の割合

なお、在籍中の職場への現職復帰を含む

## イ. 赤十字特別推薦型選抜の実施

優秀な救護看護師を養成・確保するため、日本赤十字九州国際看護大学学校推薦型選抜の赤十字特別推薦型選抜にあたり、毎年1名を選考し、奨学金として年間60万円を貸与しています。

なお、本奨学金には返還免除となる要件があります。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	計
支部長推薦者数	1	1	1	1	4

## ウ. ICT を活用した効果的な学習の取組み

本学では、電子教科書をいち早く導入しており、この電子教科書とLMS（Learning Management System）を併用し、学内での授業と自宅等での事前・事後学習を連続した学習として位置づけ、時間や場所に囚われず学習を継続できる環境を整備しています。LMS上での小テストは繰り返し学習を可能とし、また、授業動画のアーカイブ配信により、欠席時の学習補完や復習が可能になり、学習の継続性が確保されています。これらICTを活用した学習方法は、学習効果の向上と学習環境の充実の双方に寄与していますが、一方で、生成系AIの急速な発展は、学習環境に大きな影響を与えています。本学では、赤十字の理念に基づき、人間の尊厳を守り、看護専門職として必要な倫理観・判断力・創造力を備えた人材を育成する立場から生成系AIを正しく活用するためのガイドラインを策定し、学生が正しく向き合えるよう指導を強化しています。



## エ. 社会連携・社会貢献活動

社会連携・社会貢献活動として、年間活動計画のもと、地域社会との連携強化に向けて活動を実施しています。宗像市との連携協力協定については、現状と合わなくなっている箇所があったため、令和7年度に見直しを行い、より現実的かつ強力な協定となりました。この協定に基づき、宗像市及び関連する委員会・審議会・協議会等の委員に多くの教員が就任しています。

また、令和7年度は、クロスカレッジ2025として、市民公開講座を学内で2講座と地域で2講座を開催しました。福岡県看護協会と共催した地域の看護職向け公開講座を1講座、宗像市主催の「むなかた子ども大学」関連で2講座、UR都市機構と連携した2講座を実施し、地域との共同研究の成果の還元や、赤十字の看護大学として地域社会に貢献することができました。



## 9 医療事業

赤十字病院は、「博愛・奉仕・平等」の理念のもと、地域に根差した中核病院として、質の高い医療を提供しています。全国で90の医療施設を運営し、グループのスケールメリットを生かした経営資源の有効活用など、県内の各赤十字医療施設においてもさらなる経営効率化に努め、地域住民のニーズや期待にお応えできるよう安定した経営基盤の確立を目指しています。

また、レバノンやタイ、パプアニューギニアなどへの国際救援活動として職員の派遣や、各病院と地域との連携の強化を図り、地域包括ケアシステムの構築を推進するなど国内外で幅広く活動しました。

### 1. 病院の事業概要

#### (1) 福岡赤十字病院

福岡市内及び近郊における基幹病院として、救急医療や高齢者医療及び予防医療を積極的に行うとともに、赤十字の使命である救援・救護活動においても、福岡県支部との連携を密にし、災害時に備えた体制の強化に努めました。

診療面では、福岡県指定の第二種感染症病床2床を含む、病床数511床を有し、24時間365日「断らない医療」を基本に患者受入れを行っております。

当院は地域医療支援病院に指定されており、地域の基幹病院として一般診療・救急医療体制を維持・継続してきました。また、設備面では令和8年2月に、「血管造影撮影装置」を更新したことで検査の安全性や効率性、画像の鮮明度が向上し、より質の高い医療を提供しています。

予防医療では、人間ドック健診センターを院内に設置し、人間ドック並びに生活習慣病予防健診を中心に、健康増進や疾病の早期発見など、受診者の方に安心して満足いただける健診を提供しています。

学術活動の推進として、当院主催により第26回日本赤十字看護学会学術総会を7月に開催しました。全国から600名を超える参加者を迎え大変盛況な学術総会となり、赤十字看護の発展と看護実践の質向上に寄与することができました。

また、10月にはJCEP（卒後臨床研修評価機構）の更新訪問調査を受審しました。病院全体で取り組んできた研修体制の整備と多職種連携の成果が評価され、無事に認定を受けました。

赤十字の事業の一つであり、私達の使命である災害救護については、福岡県地域災害医療センター及び福岡県DMAT指定医療機関に指定されており、自治体等が主催する各種救護訓練や、福岡県支部が主催する災害救護訓練への参加等、平時から災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めています。令和7年9月と令和8年2月には、警固断層にて震度7の地震が発生した想定で災害訓練を行い、総勢100名を超える職員が参加して、負傷者の受け入れの流れや動線を確認しました。今後も災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めてまいります。

国際救援については、令和7年4月から国際赤十字・赤新月社連盟パプアニューギニア国事務所（連盟）へ事務職1名、令和7年8月から国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム国クラスター事務所保健要員に看護師1名、令和7年11月からパレスチナ赤新月社

医療支援事業に医師1名を派遣し、国際赤十字・赤新月社連盟の一員として任務を全うしました。

他の医療機関との連携については、「病診・病病連携連絡協議会」を開催し、当院の診療科紹介や意見交換等、地域の医療従事者の皆様と直接顔の見える連携を図りました。また、月2回の地域医療連携 web セミナーの配信を通じて、地域医療支援病院としてその機能向上に努めてきました。

さらに、市民参加型講座の「ばりよか講座」の定期開催、産地の新鮮な農産物を販売する「産直マルシェ」の開催、音楽奉仕団による「トワイライトコンサート」開催など、様々な方法で地域住民との交流を図っています。



第26回日本赤十字看護学会学術総会



JCEP（卒後臨床研修評価機構）の受審



災害訓練



パレスチナ赤新月社医療支援事業



病診・病病連携連絡協議会



産直マルシェ

## (2) 今津赤十字病院

当院は、神経難病・脳卒中・認知症疾患を持つ高齢者への診療を柱とする福岡市西区・糸島医療圏の公的医療機関として、「地域医療への貢献」、「全人的医療」、「医療と福祉の架け橋」を基本方針とし、地域住民に安心・信頼される医療サービスの提供に努めています。

国は、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。この中で、特に増加する傾向にあると言われている認知症については、新治療薬投与フォローアップ施設として、軽度認知症患者の病状進行抑制に努めました。また、「福岡県・佐賀県重度難病患者レスパイト入院事業」契約を継続し、レスパイト入院を推進しました。

さらに、地域包括ケアシステムの一翼を担うため、地域活動として健康講座等を行っており、平成30年11月から今津公民館と共催している「いまづカフェ」では、地域の方が気軽に立ち寄れて、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しみ、ゆっくりとした時間を過ごせる憩いの場として定着しています。隔月開催で当院の看護師や作業療法士等による健康相談や創作活動、タクティール®ケアをはじめ、講演やコンサートなど様々な企画を行いました。

訪問看護ステーションでは、24時間対応型の在宅医療の要として、地域の診療所と連携を密にし、乳幼児から身体・精神に障害のある高齢者に至るまで幅広い疾患や年齢層の利用者に対する在宅支援を行いました。

令和7年度は、幸いに医療救護班を派遣するような大きな災害は発生しませんでしたでしたが、職員向けにこころのケア研修や救急法講習（一次救命処置）を行うなど、常に赤十字病院としての使命を全うできるよう努めました。



地域活動「講演」



いまづカフェ「タクティール®ケア」



いまづカフェ「コンサート」



救急法講習（一次救命処置）

### (3) 嘉麻赤十字病院

当院は、嘉麻市唯一の公的医療機関として、救急告示病院および在宅療養支援病院の機能を担い、地域の医療需要に的確に対応するため、周辺の急性期病院や診療所、福祉施設等と緊密に連携し、急性期医療から回復期医療、訪問診療、在宅介護に至るまで、切れ目のない医療・介護サービスの提供に努めています。

また、地域住民が住み慣れた地域で安全・安心に暮らし続けられるよう、デイケアセンター、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、24時間在宅ケアステーションなどの付帯施設を整備し、医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する嘉麻市地域包括ケアシステムの推進に積極的に取り組んでいます。

令和7年度においては、地域の救急隊との連携連絡会を開催し、夜間・休日における救急搬送患者の円滑な受入体制の構築および救急医療の質の向上に取り組みました。あわせて、近隣の福祉施設との連携会議を実施し、地域における医療・介護連携の一層の強化を図りました。

さらに、地域との交流活動として、認知症のある方やその家族、地域住民、専門職等が気軽に集い、情報交換や相談を行う「オレンジサロン」を毎月開催するとともに、健康ミニ講座や予防リハビリ体操、健康相談等を実施しました。これらの取り組みを通じて、認知症への理解促進、介護者の負担軽減および地域住民の健康促進と認知症予防の推進を図りました。

また、地元中学生や美術協会会員をはじめとする地域住民の作品(絵画等)を展示する機会を提供したほか、地域の自主防災組織が実施する避難者支援訓練において、能登半島地震で救護活動に従事した職員を派遣し、地元住民を対象に災害救護に関する講演を行うなど、地域の防災力向上に向けた支援活動を実施しました。



救急隊との連携連絡会



福祉施設との連携会議



オレンジサロン



災害救護に関する講演

## 2. 病院の体制

令和8年3月31日現在

施設名	病床数					診療科目	職員数				
	一般	療養	精神	感染	計		年度	医師	看護師	その他	計
福岡赤十字病院	509	-	-	2	511	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・肝臓内科・血液・腫瘍内科・糖尿病・代謝内科・内分泌内科・腎臓内科・感染症内科・脳神経内科・神経内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・消化器外科・乳腺・内分泌外科・移植外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科・歯科・歯科口腔外科・病理診断科・リウマチ科	令和7年度	233 (49)	568 (3)	412 (17)	1,213 (69)
							令和6年度	234 (49)	556 (3)	407 (17)	1,197 (69)
今津赤十字病院	90	30	60	-	180	内科・神経内科・胃腸科・精神科・リハビリテーション科・循環器科・放射線科	令和7年度	14 (6)	102 (10)	101 (39)	217 (55)
							令和6年度	12 (6)	96 (10)	92 (24)	200 (40)
嘉麻赤十字病院	128	-	-	-	128	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・小児科・外科・肛門外科・整形外科・眼科・精神科・耳鼻いんこう科・泌尿器科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線科	令和7年度	51 (39)	75 (7)	113 (25)	239 (71)
							令和6年度	57 (48)	76 (7)	121 (26)	254 (81)
計	734	30	60	2	826		令和7年度	298 (94)	745 (20)	626 (81)	1,669 (195)
							令和6年度	303 (103)	728 (20)	620 (67)	1,651 (190)

( ) は臨時職員・パート (内数)

### 3. 患者状況

#### (1) 入院

区分 施設名	年度	取扱患者数		一日平均 患者数	平均在院 日数	病床利用率 (%)	診療単価 (円)
		新患者数	延数				
福岡赤十字 病院	令和7年度	16,531	170,714	467.7	10.1	92.4	95,363
	令和6年度	15,889	170,827	468.0	10.5	92.5	88,844
今津赤十字 病院	令和7年度	455	54,814	150.2	101.4	83.4	23,650
	令和6年度	372	53,951	147.8	119.1	82.1	23,040
嘉麻赤十字 病院	令和7年度	621	31,512	86.3	49.7	66.8	29,186
	令和6年度	668	33,322	91.3	49.0	68.6	29,045
計	令和7年度	17,607	257,040	704.2	—	—	—
	令和6年度	16,929	258,100	707.1	—	—	—

#### (2) 外来

区分 施設名	年度	取扱患者数		一日平均患者数	平均通院日数	診療単価(円)
		新患者数	延数			
福岡赤十字 病院	令和7年度	23,620	236,069	975.5	10.0	23,744
	令和6年度	24,516	235,286	968.3	9.6	22,577
今津赤十字 病院	令和7年度	341	15,833	65.7	46.4	11,273
	令和6年度	347	15,607	64.5	45.0	11,734
嘉麻赤十字 病院	令和7年度	3,662	40,975	169.3	11.2	12,787
	令和6年度	4,114	44,025	181.2	10.7	12,037
計	令和7年度	27,623	292,877	1,210.5	—	—
	令和6年度	28,977	294,918	1,241.7	—	—

## 10 血液事業

血液事業は、血液を提供いただける方を募集し、その血液を採取して血液製剤を作り、治療を必要とする方々のため医療機関へ血液製剤を供給するという一連の流れを担っています。

国内で使用される輸血用血液製剤は、健康な方々から無償で血液を提供いただく『献血』により作られており、国、都道府県や市町村をはじめ、多くの企業やボランティア、国民の皆さまの協力により成り立っています。

医療機関の需要を予測して献血へのご協力をお願いし、適切な血液量を確保したうえで、医療機関に安定的に血液製剤を届ける必要があることから、献血者確保が最重要課題であり、献血思想の普及を図るため様々な活動を推進しています。

### 1. 血液センターの事業概要

#### (1) 献血者確保

##### ア. 若年層対策

より若い年代から献血に触れ合う機会を増やすため、青少年触れ合い事業の一環として「はたちの献血キャンペーン」にてキッズ献血（模擬体験）を、また小学校や高等学校においては献血セミナーを行うことにより献血への理解を深めていただく活動を行いました。

大学では、学生献血推進協議会の合同研修会を実施し、改めて献血の重要性や知識を深化させ、SNSを活用した情報発信を積極的に行うなど若年層の献血者確保に努めました。

その他、学生献血推進協議会が中心となり、「博多どんたく港祭り」や「学生献血サマーキャンペーン」、「全国学生クリスマス献血キャンペーン」、「はたちの献血キャンペーン」等のイベントを開催するなど、様々な活動を展開し、県民に向けて広く普及活動を行いました。

##### イ. 複数回献血者の確保

令和4年9月から全国一斉に献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の公式アプリが導入され、献血サービスの向上を目的に新規会員の登録者確保に努めました。結果、献血協力依頼のメール配信数も順調に増加し、献血依頼やキャンペーン情報を迅速に配信することで、献血予約率並びに複数回献血者数の向上に繋がりました。また、令和8年1月から献血カード廃止に伴い積極的なアプリ登録を促した結果、新規登録者が大幅に増加いたしました。（福岡県内登録者数 約 19.3 万人 令和8年3月現在）

##### ウ. スポーツ団体との献血啓発活動

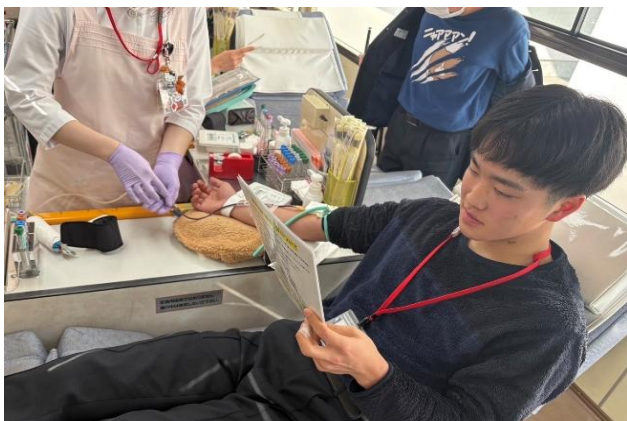
福岡ソフトバンクホークス主催の「ファイト！九州デー」、Jリーグに協賛する明治安田生命保険相互会社主催の「シャレン！で献血」等、スポーツ団体とタイアップし試合に併せ献血を実施し、新たな献血者層の開拓に努めました。

## エ. 出張所（献血ルーム）の移転

施設の整備状況及び中長期的な社会的動向を見越したうえで、令和7年度においては香椎浜出張所を開設することで、人口が増加している福岡市東部エリアへの献血サービスの向上に努めました。

## オ. 献血功労者表彰式

福岡県内において、血液事業の推進に貢献した地域組織、事業所、学校、団体等に対して表彰式を行い、献血推進に対する意欲向上に努めました。



高校献血



学生ボランティアによる献血呼びかけ  
（「博多どんたく港まつり」パレード）



献血ルーム移転  
（香椎浜出張所）



献血功労者表彰式

## (2) 血液製剤の安定供給

医療機関における短期及び中長期を見据えた輸血用血液製剤の使用状況等の情報を収集・分析し、精度の高い需給予測を行い安定供給に努めました。また、適正な供給体制に向けて緊急走行での配送低減や定時配送の促し、院内の血液製剤在庫数見直しや血液製剤発注システム（WEB発注システム）の利用促進にも取り組みました。

## (3) 地域医療機関への技術協力制度

福岡県合同輸血療法委員会の作業部会として、タスクフォース委員会と看護師部会が設置され、輸血医療に携わる臨床検査技師、看護師を対象とした輸血研修会を開催しています。令和7年度は、看護師部会が主となり、学会認定看護師を対象とした輸血研修会を開催しました。

## 2. 福岡県内における献血及び供給の状況

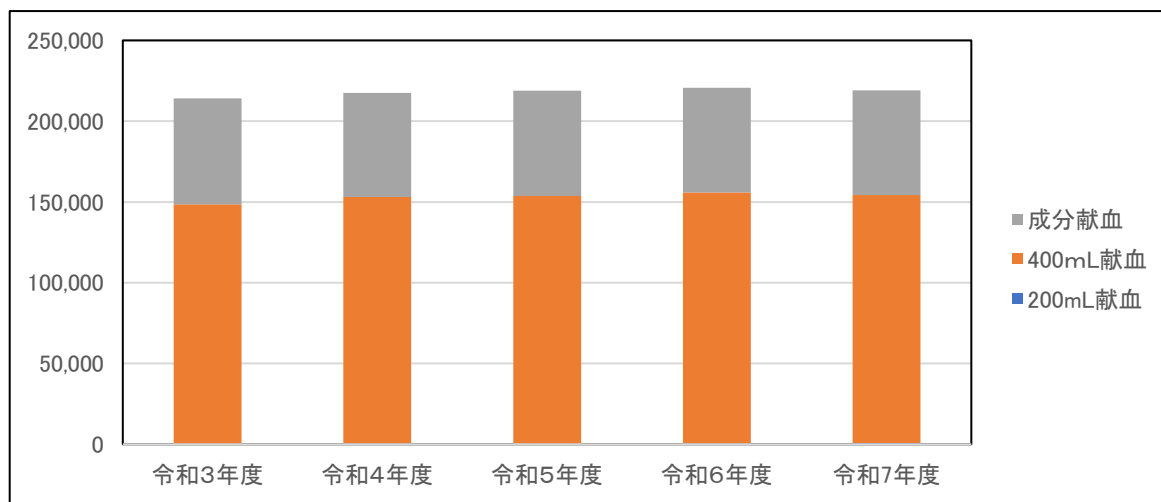
### (1) 献血状況

#### ア. 献血者の実績

令和7年度の福岡県における献血者数は219,145人で対前年度比99.3%でした。献血ルームにおいて400mL献血の確保強化を図るなど、輸血用血液製剤の安定確保に努めました。

献血者数 (人) (%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年比
200mL	231	568	396	471	801	170.1
400mL	148,329	152,530	153,267	155,403	153,485	98.8
成分	65,621	64,395	65,275	64,767	64,859	100.1
計	214,181	217,493	218,938	220,641	219,145	99.3



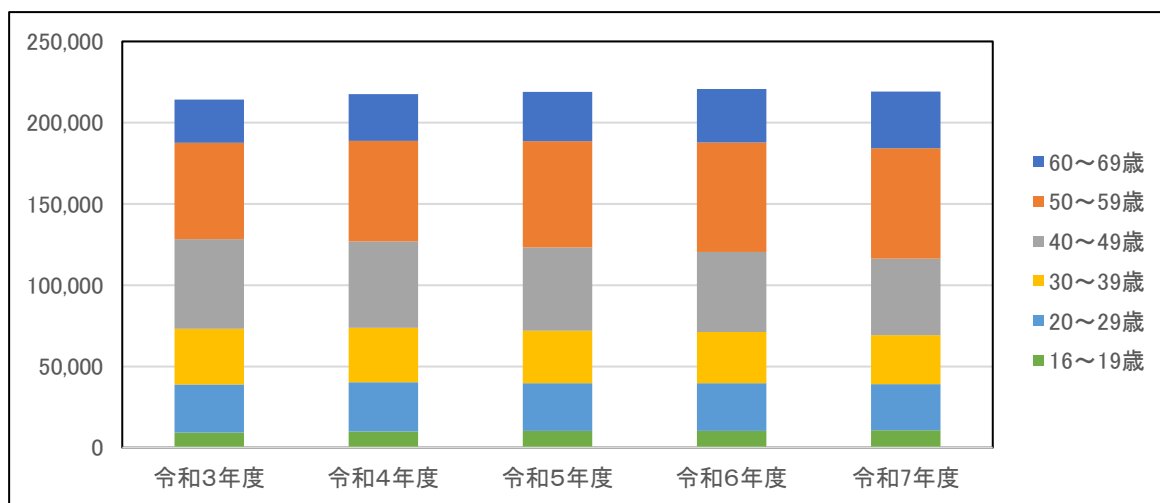
#### イ. 年代別献血者の推移

福岡県の年代別献血状況は、コロナ渦で献血実施ができていなかった職域施設において再び献血実施をお願いできるようになったことで実施回数が増え、特に50歳以上の献血者については再度献血の機会が生まれたことにより令和6年度と比較し増加しました。また、10代では、高校献血を県教育庁と情報共有を行いながら献血セミナーから学内献血実施に向け積極的に推進を行ったことで増加しました。

年代別献血者数

(人) (%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年比
16～19歳	9,381	10,025	10,293	10,365	10,823	104.4
20～29歳	29,580	30,295	29,309	29,387	28,283	96.2
30～39歳	34,258	33,449	32,320	31,553	30,170	95.6
40～49歳	55,150	53,113	51,370	49,244	47,139	95.7
50～59歳	59,255	61,991	65,230	67,332	67,964	100.9
60～69歳	26,557	28,620	30,416	32,760	34,766	106.1
計	214,181	217,493	218,938	220,641	219,145	99.3

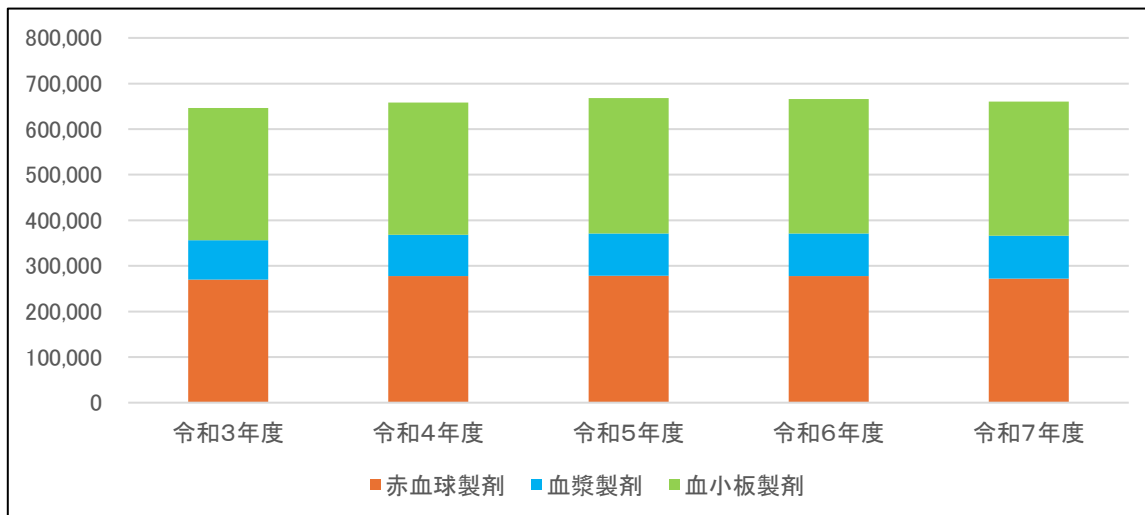


(2) 供給状況

福岡県の輸血用血液製剤の供給状況は、令和3年度から増加傾向になりましたが、令和6年度から減少に転じています。血液内科領域での新たな治療法が確立されたことが要因と考えられます。

供給単位数 (200mL換算単位)  
(人) (%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年比
全血製剤	0	0	0	0	0	0.0%
赤血球製剤	269,824	277,734	278,075	277,578	271,813	97.9%
血漿製剤	86,466	90,639	92,837	93,587	94,252	100.7%
血小板製剤	290,130	290,135	297,415	295,075	294,470	99.8%
計	646,420	658,508	668,327	666,240	660,535	99.1%



### （3）医薬情報活動の状況

福岡県内の医療機関に対して、輸血用血液製剤の適正使用や取扱い等の説明会及び輸血療法に関する情報提供を積極的に実施し、医療安全に努めています。令和7年度は、要請があった医療機関で開催しました。

#### ○令和7年度 医療機関への説明会

開催数	12回
参加総数	293人

#### ○第29回福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部薬務課主催「福岡県合同輸血療法委員会」は、福岡県庁にて集合型会議での開催となりました。

開催日	令和8年2月5日（木）
開催方法	集合型会議
テーマ	「献血から血液製剤供給まで」
参加施設数	99施設
主催	福岡県保健医療介護部薬務課

### 3. 職員数の状況

毎年度、血液事業本部からその事業規模に応じた職員数が定められ（職員定数）、その範囲内で事業運営をすることになっています。

	管理	総務	品質	医務	献血 推進	採血	学術 供給	健診医 など	計
令和 7年度	4 (0)	15.6 (2.6)	2 (0)	3 (1)	84.6 (30.6)	110.7 (5.7)	75.2 (54.2)	29.5 (29.5)	324.6 (123.6)
令和 6年度	4 (0)	15 (2)	2 (0)	3 (1)	84 (36)	112 (11)	66 (47)	29 (29)	315 (126)

( ) は、各年度末の非正規職員数（内数）

# 11 社会福祉事業

特別養護老人ホームは、依然として厳しい経営環境にある中、引き続き感染症対策の徹底や、更なる人材確保や育成を図り、利用者の方々が安全・安心で快適に生活できるよう経営基盤の強化に努めています。

また、良質な介護サービスの提供を行うため、介護現場の ICT 化や資質向上に向けた介護研修への受講を推進しました。

## 1. 社会福祉施設の事業概要

### (1) 特別養護老人ホーム大寿園

#### ア. 経営の安定化

(ア) 感染症対策の徹底や、介護と看護が連携した健康管理を実施するとともに、退院後の施設受入れをスムーズに行える体制を構築

(イ) 特養3棟のうち一般棟の2棟を一体化して業務の効率化を図る取組みを実施

#### イ. 介護、看護職員の人材確保と育成

(ア) 良質な介護サービス等の提供と職員のスキルアップを図るため、外部研修への職員の派遣やWEB研修の受講、施設内実技研修を実施

#### ウ. 安心安全な環境整備

(ア) 危機管理の観点から老朽化した施設設備の計画的な更新や修繕を実施

(イ) 利用者がより安全に生活できるよう見守りカメラを活用

(ウ) 利用者の重度化と医療ニーズの多様化に迅速に対応できるよう新たな医療体制の構築に向けた取組みを実施

#### エ. ボランティア・地域との連携及び交流

(ア) 地域の保育園児が高齢者と交流するイベントを実施

(イ) 看護、介護学生の施設見学や研修受入を実施



ひな祭り



餅つき大会

## (2) 特別養護老人ホームやすらぎの郷

ア. 各部門（特養・ショート・デイサービス）における利用者確保

(ア) 安定的な利用者確保を目的として、デイサービスから特養入所まで切れ目ないサービス提供が可能な施設であること、また、“看取り介護”に対応可能な施設であることについて、関係機関等への周知・PRを継続して実施

(イ) 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネジャー等との連携を強化し、情報共有を図ることで、デイサービス・ショートステイの利用率の向上

イ. 利用者の安全確保およびサービスの質の向上・職場環境の改善

(ア) 嘱託医および協力医療機関との連携のもと、入所者の健康維持に努めるとともに、看護職員・介護福祉士による日常的な健康管理を徹底し、入院リスクを軽減

(イ) 尿路感染症やインフルエンザ等の感染症における感染防止対策の徹底

(ウ) 見守りカメラを活用し、入所者の活動傾向を分析・検証し、転倒防止対策と安全性の向上

(エ) リクライニング機能が充実した介護ベッドへの更新を増やし、嚥下機能が低下している入所者の誤嚥性肺炎予防を図るとともに、介護職員の食事介助における身体的負担を軽減

ウ. 地域との連携およびボランティア活動の推進

(ア) 志免町「認知症初期集中支援チーム」の一員として、当施設の主任ケアマネジャーが参画し、地域における認知症等の早期発見および適切な支援に貢献

(イ) 宇美商業高等学校や地域の幼稚園からの施設訪問を受け入れ、利用者との交流活動を実施。

(ウ) 公開講座「もっとクロス講座“地域と老いを考える会”」を開催

(エ) 志免町赤十字介護奉仕団「ふきのとう」による生活支援ボランティアや、地域住民による施設内清掃ボランティアの受け入れを実施

エ. 職員研修の充実および人材育成の推進

(ア) 人材育成方針に基づき、計画的な資格取得・更新の支援を行うとともに、外部研修への参加促進による職員の専門性および資質の向上

オ. 施設の老朽化への対応

(ア) 危機管理および経費削減の観点から、老朽化した空調設備の更新を実施し、燃料を灯油から電気へ転換することで、環境に配慮した施設運営の推進



福岡赤十字病院から講師を招いての職員研修



秋祭り

### (3) 特別養護老人ホーム豊寿園

#### ア. 各種感染症の予防と対策

- (ア) 感染症発生に伴う各棟職員クロス回避（動線交差回避）を徹底するとともに、事前チェック用の抗原検査キットを全職員へ配付
- (イ) 感染拡大防止を目的とした面会制限（未就学児禁止、居室棟外での事前予約制）の実施

#### イ. 利用者サービスの向上

- (ア) 見守り監視カメラの増設による利用者の転倒防止と職員の夜間巡回の負担軽減
- (イ) 特養棟内のエアコンー斉洗浄による利用者環境の改善

#### ウ. 介護職員の安定確保と職場環境の改善

- (ア) 市内高等学校福祉科実習生の受け入れと採用
- (イ) 有料求人広告媒体の積極的活用及びSNSを活用した若年層向け動画の積極的配信
- (ウ) 職員休憩室の畳張替えなど施設環境の整備を実施し、職場環境を改善
- (エ) 職員間の交流促進のためのサークル結団勸奨と助成金制度の創設

#### エ. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 介護職員のスキルアップのため、認知症介護実践者研修等への受講を継続して推奨
- (イ) 介護支援専門員資格の取得に向けた勉強会の開催やテキスト代等の助成
- (ウ) 赤十字救急法指導員養成講習への受講勸奨
- (エ) 介護職員研究発表会（H1グランプリ）を開催し、日ごろ取り組んだ業務改善を発表し共有

#### オ. ボランティアと地域福祉の連携強化

- (ア) 特殊奉仕団の定期的なボランティア活動の再開
- (イ) 地域の保育園児、小学校児童との交流会を実施
- (ウ) 支部から要請のあった救急法等短期講習への指導員の派遣



SNS等を活用した若年層向け情報配信



実習生としてレクリエーションを実施（上段）  
採用試験を経て、入社式にて辞令交付（下段）

## 2. 社会福祉施設の体制

令和8年3月31日現在

区分 施設名	サービス内容・定員数	職員数					
		年度	事務職	介護職	看護職	その他	計
大 寿 園	特別養護老人ホーム 150 人	令 和 7 年度	5 (0)	59 (12)	9 (6)	23 (17)	96 (35)
	ショートステイ 8 人						
	デイサービス 30 人	令 和 6 年度	6 (1)	65 (16)	9 (6)	24 (19)	104 (42)
	ケアプランセンター —						
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム 100 人	令 和 7 年度	6 (0)	55 (11)	6 (2)	14 (13)	81 (26)
	ショートステイ 20 人						
	デイサービス 35 人	令 和 6 年度	6 (0)	54 (15)	7 (2)	14 (11)	81 (28)
	ケアプランセンター —						
	ケアハウス 20 人						
豊 寿 園	特別養護老人ホーム 100 人	令 和 7 年度	6 (2)	43 (4)	5 (0)	28 (25)	82 (31)
	ショートステイ 20 人						
	デイサービス 12 人	令 和 6 年度	6 (2)	43 (4)	5 (0)	25 (22)	79 (28)
	ケアプランセンター —						
計	特別養護老人ホーム 350 人	令 和 7 年度	17 (2)	157 (27)	20 (8)	65 (55)	259 (92)
	ショートステイ 48 人						
	デイサービス 77 人	令 和 6 年度	18 (3)	162 (35)	21 (8)	63 (52)	264 (98)
	ケアプランセンター —						
	ケアハウス 20 人						

再雇用、嘱託、臨時職員・パート（内数）

### 3. 利用者状況

区分 施設名	サービス内容	令和7年度			令和6年度		
		延利用者数	一日平均 利用者数	利用率 (%)	延利用者数	一日平均 利用者数	利用率 (%)
大 寿 園	特別養護老人ホーム	45,300	124.1	82.7	44,895	123.0	82.0
	ショートステイ	1,618	4.4	55.4	1,274	3.5	43.6
	デイサービス	5,301	17.1	57.0	4,937	16.0	53.4
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム	36,921	101.2	101.2	37,127	101.7	101.7
	ショートステイ	4,043	11.1	55.4	4,107	11.3	56.3
	デイサービス	5,162	17.1	51.4	5,737	19.6	55.9
豊 寿 園	特別養護老人ホーム	35,368	96.9	96.9	34,607	94.8	94.8
	ショートステイ	4,112	11.3	56.4	3,479	9.5	47.5
	デイサービス	2,597	7.1	59.2	2,368	6.5	54.5
計	特別養護老人ホーム	117,589	322.2	-	116,629	319.5	-
	ショートステイ	9,773	26.8	-	8,860	24.3	-
	デイサービス	13,060	41.3	-	13,042	42.1	-

# 主な行事

4  
月

- 日本赤十字九州国際看護大学入学式（宗像市）

10  
月

- 福岡市市民総合防災訓練（南区会場）

5  
月

- 赤十字運動月間キャンペーン
- レッドライトアッププロジェクト
- 救護員育成訓練（共通過程：動画視聴形式）
- 福岡県青少年赤十字指導者協議会総会
- 全国赤十字大会（東京都）
- 地区（本部）分区赤十字担当者研修会
- 監査委員監査
- 福岡県赤十字奉仕団国際交流事業【釜山派遣】
- 福岡県総合防災訓練（那珂川市）

11  
月

- 福岡市震災対処訓練（福岡市）
- 福岡市防災フェア（福岡市）
- 福岡マラソン2025臨時救護
- 令和7年度献血功労者表彰式（福岡市）
- 福岡県日赤紺綬会創立65周年記念総会（北九州市）
- 第18回青少年赤十字福岡県大会
- 福岡県国民保護図上訓練（福岡市）
- 九州八県赤十字大会（鹿児島県）

6  
月

- 救護班要員研修Ⅰ
- 教職員対象着衣泳体験指導講習
- 令和7年度第1回評議員会
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会学習会（第1回）

12  
月

- 「NHK海外たすけあい」キャンペーン
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会 学習会（第2回）
- 第6ブロック青少年赤十字指導者協議会会長会議
- 福岡県青少年赤十字研究推進校発表会（大野城市立月の浦小学校）
- 九州八県支部合同災害救護訓練（宮崎県）

7  
月

- 第61回献血運動推進全国大会（宮城県）
- 福岡県青少年赤十字国際交流事業【福岡受入】

1  
月

- 第6ブロック赤十字奉仕団委員長会議
- 全国救護班研修（久留米市）

8  
月

- 福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター
- 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会総会
- 福岡県青少年赤十字指導者養成講習会
- 防災教育事業指導者養成研修
- イベント「備える防災の日2025」（北九州市）

2  
月

- 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修会
- 地区（本部）分区赤十字担当者会議
- 令和7年度第2回評議員会
- 福岡県赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会
- 福岡県青少年赤十字研究会
- 相続・遺言・寄付セミナー

9  
月

- 赤十字防災フェスティバル（大牟田市）
- 日本赤十字社全国支部事務局長会
- 社業振興特別委員会（宮城県）
- 紺綬会常任委員会議

3  
月

- 救急法・水上安全法指導員研修会
- 永年勤続者表彰式
- 紺綬会常任委員会議
- 日本赤十字九州国際看護大学卒業式（宗像市）
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会年度末集会
- 青少年赤十字スタディー・センター
- 災害対策本部要員研修
- 直方市保健福祉センター「ゆずりあ」開館記念イベント

## 支部管内施設

令和8年4月1日現在

### 支部

施設名	事務局長	所在地	電話番号
日本赤十字社福岡県支部	後藤 和孝	〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
久留米赤十字会館		〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27	0942-36-5858

### 病院

施設名	院長	所在地	電話番号
福岡赤十字病院	中房 祐司	〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
今津赤十字病院	藤井 弘二	〒819-0165 福岡市西区今津377	092-806-2111
嘉麻赤十字病院	波多江 健	〒821-0012 嘉麻市上山田1237	0948-52-0861

### 血液センター

施設名	所長	所在地	電話番号
福岡県赤十字血液センター	熊川 みどり	〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
福岡県赤十字血液センター 北九州事業所		〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1	093-631-1211
献血ルーム おっしょい博多		〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム 天神西通り		〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア地下1階	092-726-1188
献血ルーム イオンモール香椎浜		〒813-0016 福岡県福岡市東区香椎浜3-12-1 イオンモール香椎浜2F	092-410-6811
献血ルーム 魚町銀天街		〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3 白樺ビル	093-551-1211
献血ルーム くろさきクローバー		〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211

### 社会福祉施設

施設名	園長	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム大寿園	荒木 ひとみ	〒819-0165 福岡市西区今津520	092-806-6100
特別養護老人ホームやすらぎの郷	平田 秀政	〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600	092-936-2022
特別養護老人ホーム豊寿園	森 務	〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5	093-481-1121

### 看護大学

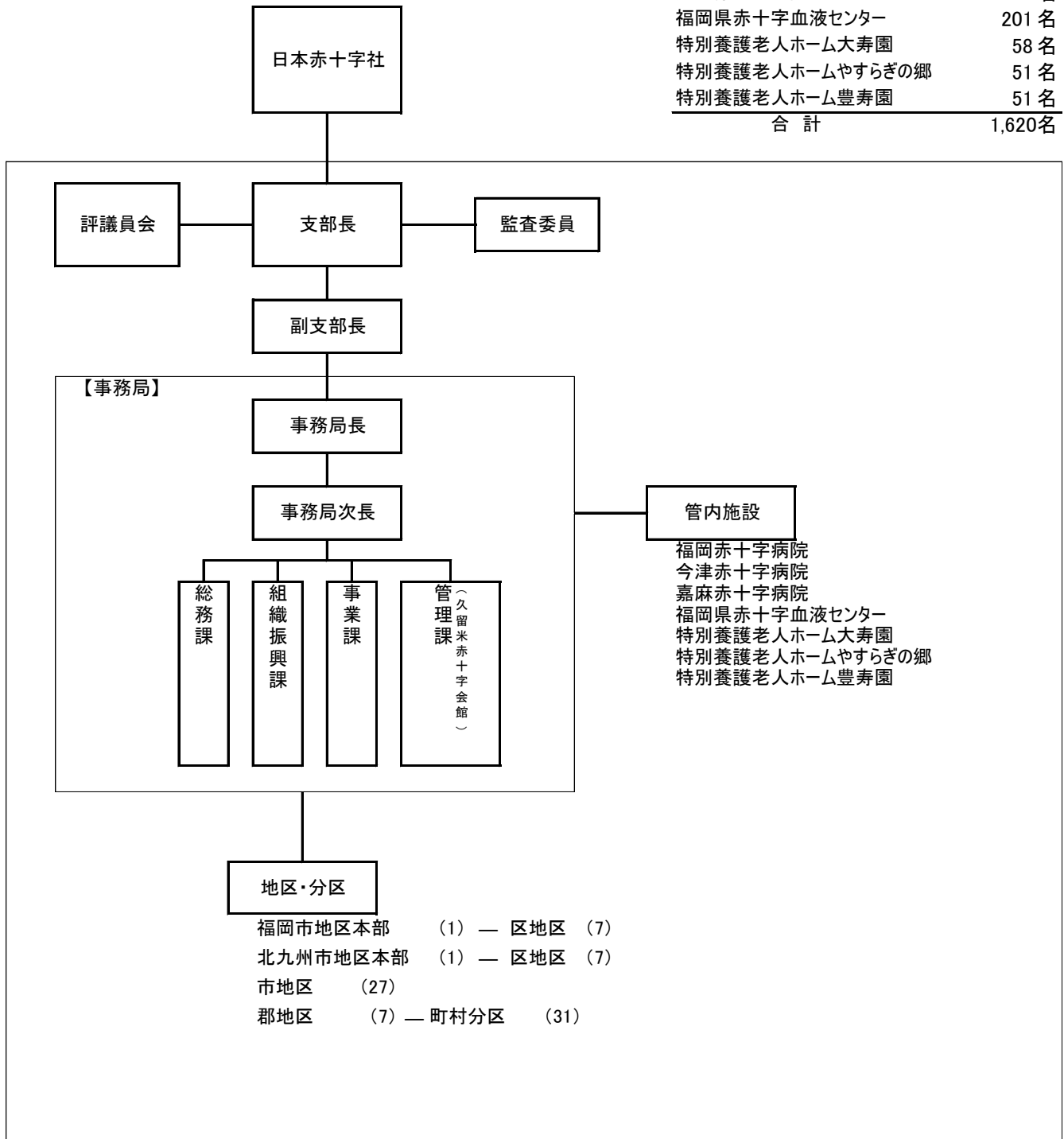
施設名	学長	所在地	電話番号
学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学	池松 裕子	〒811-4157 宗像市アスティ1-1	0940-35-7001

# 支部機構

令和8年4月1日現在

## 【正職員数】

日本赤十字社福岡県支部	21名
福岡赤十字病院	978名
今津赤十字病院	145名
嘉麻赤十字病院	115名
福岡県赤十字血液センター	201名
特別養護老人ホーム大寿園	58名
特別養護老人ホームやすらぎの郷	51名
特別養護老人ホーム豊寿園	51名
合計	1,620名



## 【関係団体】

日本赤十字九州国際看護大学

## 【本社直轄施設】

日本赤十字社九州ブロック血液センター

## 支部役員名簿

### 評議員(67名)

役職	氏名
支部長	服部 誠太郎
副支部長 (2名)	上田 哲子
	牟田 口 徹
監査委員 (2名)	森山 敦文
	平島 研二
本社理事 (1名)	豊馬 誠
本社代議員 (9名)	高島 宗一郎
	武内 和久
	井上 澄和
	美浦 喜明
	川野 栄美子
	豊馬 誠
	澁田 繁晴
	津村 洋一郎
	日向 祥剛

No.	氏名
1	山地 正樹
2	北原 明彦
3	澁田 繁晴
4	平野 能章
5	三亀 幹治
6	高島 宗一郎
7	武内 和久
8	川野 栄美子
9	池松 裕子
10	藤田 秀之
11	平田 成人
12	中村 卓也
13	仲原 善信
14	高木 泉美
15	大倉野 良子
16	三宅 宏治
17	大園 喜代香
18	岩村 恭代
19	島本 喜多江
20	井上 保之
21	中村 啓子
22	日々谷 健司
23	北原 正利
24	奥野 静人
25	柿内 よし子

No.	氏名
26	大庭 千枝
27	林田 裕子
28	小杉 繁樹
29	太田 康子
30	石川 達郎
31	浜 和 枝
32	重 石 悟
33	横溝 敏子
34	森 智 彦
35	徳田 清隆
36	武井 政一
37	井上 節子
38	村上 卓哉
39	松 永 久
40	蓑原 悠太郎
41	西田 正治
42	江藤 義行
43	工藤 政宏
44	西 元 健
45	福田 浩
46	平井 一三
47	井上 澄和
48	堤 かなめ
49	加地 良光
50	伊豆 美沙子

No.	氏名
51	高原 清
52	月形 祐二
53	田辺 一城
54	福井 崇郎
55	権藤 英樹
56	柴田 裕美子
57	中島 秀樹
58	佐伯 憲子
59	松嶋 盛人
60	武末 茂喜
61	安川 茂伸
62	貝掛 俊之
63	大坪 紀子
64	松尾 美智代
65	広松 栄治
66	中村 孝
67	古市 照雄

令和8年5月1日現在

## 支部沿革

年 月 日	あ ゆ み
明治21年12月17日	福岡県兵事課内に委員部設置（委員長に安場保和知事就任）
12月28日	第1回の社員章及び締盟状授与式を行う（正社員130名）
明治27年9月7日	福岡県委員部が支部に昇格（初代支部長に岩崎小二郎知事就任）
10月	支部に速成看護婦養成所設立
明治29年11月7日	支部第1回社員総会を開く 佐野社長の大演説あり（社員3,500名出席）
明治33年10月	赤十字表礼を作って社員の門戸に掲示する （後に全国的に普及することとなる）
明治35年5月16日	支部庁舎新築落成式
	篤志看護婦人会福岡支会発会式（初代支会長に深野次子知事夫人就任）
明治37年2月15日	福岡支部所管の第114救護班（看護人組織）22名仁川に出発 （日本赤十字社が戦地に救護班を派遣した最初である）
明治39年2月	日露戦争救護活動終了 （福岡支部から医師8、薬剤師3、婦長9、看護婦46、看護人44、計113名派遣）
明治40年7月20日	田川郡豊国炭坑ガス爆発（230名死亡。50名負傷）に支部救護班派遣
明治43年4月	支部第2回社員総会へ閑院総裁宮殿下ご台臨 第1回篤志看護婦人会福岡支会総会も同時に開催、閑院宮妃殿下ご台臨
大正3年11月17日	支部召集第84救護班24名を青島に派遣
大正5年11月11日	天皇陛下を迎え福岡県下で陸軍特別大演習が実施され、支部は7個救護班を編成して演習に参加
大正9年5月20日	全国に先駆け県下全市郡の巡回診療を開始
5月	門司、若松に診療所開設（全国でわずか5診療所開設）
11月8日	陸軍特別大演習が福岡、大分県下で実施、築上郡東吉富村に救護所3ヶ所を設置
大正11年11月	戸畑診療所開設
大正12年9月1日	関東地方に大震災発生、支部救護班は2日に出発、3日に入京し救護にあたる 4日に後続2個班出発（医師6、看護婦33、事務3、計42名 取扱患者延19,721名） （全国44支部・83ヶ班・患者実数562,380名・救護員4,466名）
10月	福岡支部に少年赤十字誕生
昭和4年7月1日	今津村所在結核療養所を5万円で買収、今津療養院と改称 （45床、職員14名、初代院長に秋武六一郎就任）
8月2日	夏季児童保養所を初めて開設
昭和5年3月30日	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、ご親授式並社員大会、青少年赤十字 大会開催（20,000名参加）
昭和6年8月	鞍手郡宮田町に宮田診療所開設
昭和6年9月	門司市庄司元町に門司診療所開設
昭和7年1月5日	満州事変に対し福岡支部から第5臨時救護班を編成、朝鮮龍山陸軍病院へ派遣（25名）
3月7日	臨時第12救護班（大分支部編成）に福岡支部から看護婦2名が参加亀川海軍病院へ派遣
3月17日	中支上海に13救護班派遣
10月30日	閑院宮殿下を迎え有功章など御親授式を行う
昭和8年4月	遠賀郡岡垣村に岡垣診療所開設
4月	行橋隣保館を福岡県より移管、行橋診療所及び行橋保育所を開設
5月	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ御親授式、今津療養院ご視察
6月	福岡市須崎町支部構内に福岡診療所開設
7月	門司市大里に大里診療所開設
昭和9年9月	福岡支部病院建設のため福岡市永田町25番地に田畝19,611坪を購入整地す（1坪4円50銭当）
昭和10年9月	京都郡犀川町に犀川診療所開設
昭和11年9月	企救郡曾根町に曾根診療所開設
12月	支部社員数10万人を突破する
昭和12年3月	田川郡伊田町に伊田診療所開設
6月	若松市老松町に若松診療所開設
8月17日	第84救護班召集編成病院船に派遣（班員28名）
9月25日	第85救護班編成中支那上海兵站病院に派遣（班員24名） 第114救護班召集編成上海兵站病院に派遣（班員24名） 第161救護班召集編成小倉陸軍病院へ派遣（班員22名）
9月	大牟田市に集団赤痢発生8支部より救護班派遣（死者400名、罹患10,000名を越す）
10月	動員下令に基づき召集編成、病院船、陸軍病院、満州、北支、中支、ビルマ等へ夫々救護班 を派遣
昭和13年4月	嘉穂郡山田町に建築中の診療所竣工、支部に移管、山田診療所として発足
昭和14年4月	今津赤十字病院に乙種救護看護婦養成所開設
昭和14年6月	京都郡泉村に中山診療所開設

年 月 日	あ ゆ み
昭和15年11月	支部社員総会へ徳川囿順社長出席
昭和16年11月6日	徳川社長を迎え、特別社員総会を開く（来会6,000名）
12月8日	第2次世界大戦起る この年、2救護班を満州と南方に派遣
昭和17年10月31日	総裁梨本宮妃殿下を迎え篤志看護婦人会福岡支会第3回会員大会開く
昭和17年12月	支部社員数20万人を突破す。この年救護班3班を南方へ派遣
昭和18年7月1日	この年、5救護班を満州、華北へ派遣。支部社員数30万人を越える
昭和19年5月	小倉市三萩野に小倉診療所開設 この年、6救護班を内地陸海軍病院へ派遣
昭和20年6月19日	米軍機空襲により福岡市灰燼と化し支部焼失 支部事務所を高宮公会堂に移し、後、住吉小柳町石橋鉄工所2階に移す
8月15日	大東亜戦争終結。当支部が昭和12年7月から内外地に派遣した救護班は32ヶ班1,223名 （大阪支部に次ぐ多数） この年、4救護班を国立筑紫病院外派遣（戦時救護収拾のため）
昭和22年3月	中山、岡垣両診療所廃止
7月	家庭看護法、救急法、水上安全法の普及講習会再開
8月22日	現在地に100坪のバラック建支部事務所を建築移転
12月	支部事務所の一部に福岡診療所を開設
昭和23年3月	今津赤十字病院乙種救護看護婦養成所閉鎖（養成数129名）
4月	支部敷地の内10,000坪を高宮中学校建設用地に売却（200万円也）
9月8日	小倉市第一中学校青少年赤十字団結成 10月田川郡糸田小学校3年1組結成
11月29日	福岡市原小学校青少年赤十字団結成
昭和24年2月3日	山門郡柳城中学校青少年赤十字団（170名）結成
11月	三潞郡木佐木村八丁傘田に三潞診療所開設
12月	支部庁舎完成（木造2階建延116坪）移転
昭和25年2月11日	支部庁舎新築落成式挙行 島津社長出席
5月	大里診療所、門司市大里に建物を購入移転
7月	浮羽郡竹野村に竹野診療所開設
昭和26年	支部構内に製薬所を建築、薬物研究所発足
7月	糸島郡前原町に糸島診療所開設
8月	宗像郡岬村に岬診療所開設
昭和27年10月	定款の改正により、福岡県支部に改称
昭和28年6月26日	西日本水害発生、筑後川流域及び遠賀川地区ほか13救護班派遣 関東以西各県支部より救恤品処理応援を受ける 島津社長1週間に亘り被害現地を視察
昭和29年12月	福岡赤十字病院内に血液銀行開設
昭和30年3月	京都郡勝山町に黒田診療所開設
3月	支部救護資材倉庫建築
3月	支部救護員宿泊施設建設
昭和32年7月	西九州水害のため長崎県南高来郡多比良町へ救護班派遣
昭和33年4月	福岡赤十字高等看護学院第1回生入学 名誉総裁皇后陛下、副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会開催
昭和34年11月30日	福岡県日赤紺綬会発会式（クラブ九州にて）
昭和35年5月8日	名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州各県支部連合災害救護演習を実施（久留米市）
昭和36年3月6日	上清炭坑ガス爆発救護班派遣、72名死亡
3月31日	玄海島出張診療所を福岡市へ移管
11月30日	名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第1回青少年赤十字福岡県大会開催（千代小学校）
昭和37年1月	竹野診療所廃止
3月	門司、曾根両診療所廃止
10月20日	福岡県赤十字血液銀行開設
昭和38年6月	若松診療所廃止
7月	大里診療所廃止
8月	福岡赤十字病院へ移管の三潞、糸島両診療所廃止
11月9日	三井三池炭鉱爆発事故発生に対し救護班派遣
昭和39年2月	集団赤痢発生、市立荒津病院へ看護婦派遣
2月	岬、久留米助産院、福岡薬物研究所廃止
5月1日	胃集団検診開始
6月	集団赤痢発生、宗像町、古賀町伝染病院へ看護婦派遣
昭和39年11月	黒田診療所廃止
昭和40年6月17日	名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第2回青少年赤十字福岡県大会開催
7月	小倉診療所廃止

年 月 日	あ ゆ み
9月	第1回福岡県献血運動推進大会開催
昭和41年1月	犀川診療所廃止
3月	行橋保育所を行橋市へ移管
7月 1日	北九州赤十字血液センター新築開設
昭和42年11月12日	北朝引揚帰還協定契約満了に伴い各市町村窓口を閉鎖
昭和43年3月	行橋診療所廃止
昭和44年5月8日	高松宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会を開催
9月	子宮癌集団検診開始
昭和45年2月	八幡診療所廃止
4月5日	日本航空よど号乗取り事件発生、乗客の安全確保のため板付空港に2日間救護班派遣
昭和46年3月22日	福岡県赤十字血液センター新築移転（須崎ビル）
昭和47年11月30日	福岡赤十字病院本館落成
昭和49年10月31日	三笠宮妃殿下ご台臨のもと九州八県支部連合赤十字大会を開催
昭和50年8月27日	大韓赤十字社釜山直轄市支社と姉妹協定締結
昭和51年11月17日	常陸宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部社屋並びに災害救護センター落成
昭和52年4月	本社創立100周年を期して支部長期事業計画策定
昭和53年7月26日	山田市にベトナム難民収容施設「大法園」開設（園長 伊藤愛助）
10月25日	高松宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部創設90周年記念赤十字大会を開催
昭和54年3月19日	北九州赤十字血液センター新築移転（八幡西区）
4月5日	特別養護老人ホーム「大寿園」開設
昭和57年4月1日	支部第2次長期5ヶ年計画策定 日赤各地区へ災害救護車の配備始まる
昭和59年10月9日	福岡赤十字病院奉仕団結成（団員21名）
昭和60年4月	福岡県赤十字血液センター新築移転（筑紫野市）
昭和62年7月31日	青少年赤十字メンバー1名をタイ・ネパールへ派遣 ～8月17日迄
10月16日	ネパール保健衛生事業の指導のため、福岡赤十字看護専門学校江田柳子教師を派遣 ～昭和63年4月17日迄
昭和63年3月31日	ベトナム難民収容施設「大法園」閉園
4月9日	今津赤十字病院落成
5月27日	日本赤十字社福岡県支部創設百周年赤十字大会を開催
9月10日	支部創設100周年記念「赤十字国際救護チャリティコンサート」を開催
10月31日	青少年赤十字再建40周年記念全国大会（静岡県・YMCA東山荘）に参加 ～11月2日迄
11月29日	赤十字奉仕団創設40周年記念全国奉仕活動研究大会（東京都）に参加 ～30日迄
平成元年7月24日	皇太子殿下 今津赤十字病院ご訪問
11月7日	福岡県日赤紺綬会創立30周年記念総会開催
8日	九州八県支部連合赤十字大会開催
12月16日	中国民航機ハイジャック救護のため福岡空港へ救護班派遣
平成2年6月13日	献血ルーム「はかた祇園」開所
平成3年3月31日	献血ルーム「くるめ1番街」開所
平成4年11月1日	第7回青少年赤十字福岡県大会（福岡市・中央市民センター）
平成5年5月8日	統一ボランティアDAY'93開催（第1回）
7月29日	全国赤十字老人ホーム連絡協議会（太宰府） ～31日迄
平成5年9月26日	ホームヘルパー研修講師海外研修のため支部職員1名をアメリカ・カナダへ派遣 ～10月9日迄
平成6年11月16日	福岡県日赤紺綬会創立35周年記念総会（九州厚生年金会館）
平成7年1月17日	兵庫県南部地震発生（阪神・淡路大震災）
18日	神戸市へ第1次～第6次医療救護班延べ52名派遣 ～2月19日迄
10月16日	特別養護老人ホーム「大寿園」増改築工事竣工
平成8年2月8日	福岡赤十字病院腎センター落成
3月3日	中国紅十字会救急法交流団訪中 ～10日迄
5月30日	特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」落成
6月13日	福岡空港ガルーダ・インドネシア航空機墜落事故（救護班24名派遣）
平成9年3月4日	第6ブロック支部国際交流事業（フィリピン派遣） ～7日迄
5月29日	特別養護老人ホーム「豊寿園」落成
10月25日	日本赤十字社創立120周年記念国際救護チャリティーコンサート（アクロス福岡）
平成10年11月1日	青少年赤十字創設75周年及び第9回青少年赤十字福岡県大会（大楠小学校）
18日	日本赤十字社福岡県支部創設110周年・福岡県赤十字奉仕団創設50周年記念大会並びに 福岡県日赤紺綬会第39回総会（アクロス福岡）
18日	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（ソラリアプラザ 入場者11,351名） ～24日迄
19日	九州八県支部連合赤十字大会（電気ビル）
12月6日	福岡県赤十字視察団（中国江蘇省派遣） ～12日迄
平成11年6月28日	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（久留米市）

年 月 日	あ ゆ み
8月2日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（大野城市）～6日迄
11月10日	福岡県日赤紺綬会第40回総会（電気ホール）
12月24日	日本赤十字九州国際看護大学起工式
平成12年1月28日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（八幡東区）
6月28日	（財）福岡県市町村振興協会より受託の2級ホームヘルパー養成研修開始
12月21日	日本赤十字九州国際看護大学設置認可
平成13年3月29日	日本赤十字九州国際看護大学及び講堂棟合同竣工式
31日	福岡県と特別養護老人ホーム大寿園用地の売買契約書締結（平成13年7月4日登記済）
4月5日	日本赤十字九州国際看護大学入学式（114名）
5月22日	山田ホームヘルパー研修センター竣工
6月29日	久留米赤十字会館（仮称）起工式
平成14年3月8日	福岡赤十字看護専門学校閉校
4月28日	元日本赤十字社福岡県支部救護看護師ナイチンゲール記章受賞者高瀬松子氏葬儀
5月7日	日本赤十字社創立125周年記念日韓交流チャリティーコンサート～10日迄
16日	日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会
27日	日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団「オリーブ」結団式
6月17日	久留米赤十字会館定礎式
7月18日	久留米赤十字会館オープン記念式典（名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席）
31日	2002アジア太平洋青少年赤十字研修会へ日本赤十字九州国際看護大学生及び職員3名を韓国ソウルへ派遣～8月5日迄
10月3日	韓国赤十字社職員及び政府公務員17名視察研修のため来福～4日迄 （支部・やすらぎの郷・福岡市役所）
平成15年1月6日	大韓赤十字社テグ広域市支社青少年赤十字メンバー83名訪問
2月5日	大韓赤十字社インチョン支部青少年赤十字メンバー35名訪問
26日	甘木市立蜷城小学校青少年赤十字結成50周年記念式典
3月10日	H.E.L.P in JAPAN 2003 開催（日本赤十字九州国際看護大学）～28日迄
20日	赤十字介護フォーラムin福岡（アクロス福岡）
平成16年1月30日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～2月23日迄
3月8日	介護フォーラムin北九州開催（小倉北区）
3月13日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院河口看護師派遣～3月30日迄
6月1日	福岡県赤十字血液センター天神中央出張所（イムズ8F）オープン
7月1日	福岡県赤十字血液センター博多出張所（キャナルシティ）リニューアルオープン
10月28日	新潟県中越地震災害救護のため医療救護班派遣（計2班・13名）～11月8日迄
10日	新潟県中越地震災害救護のため「こころのケア」指導員（2名）派遣～11月18日迄
12日	福岡県日赤紺綬会創立45周年記念総会（電気ホール）
18日	フィリピン赤十字社代表団（4名）受入～21日迄
27日	特別養護老人ホーム大寿園25周年式典（シーホーク）
平成17年1月24日	中国紅十字会血液代表団（4名）受入
3月1日	スマトラ島沖地震・津波被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師、山本主事派遣（ERU第5班）～4月13日迄
20日	福岡県西方沖地震発生 福岡県支部医療救護班第1班（救護員7名）を玄界島へ派遣
21日	福岡市九電記念体育館内救護所にて医療救護活動（救護員総数106名）～4月1日迄
21日	志賀島での巡回診療（救護員7名）
21日	福岡市西区西浦にて巡回診療（救護員総数10名）～23日迄
24日	福岡市西区西浦救護所にて医療救護活動（救護員総数41名）～4月7日迄
21日	こころのケアを実施～4月26日迄 （福岡市東区志賀島 3月23日迄 救護員総数3名、 九電記念体育館 4月26日迄 救護員総数45名）
10月24日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院橋本看護師派遣～12月18日迄
11月4日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師派遣～12月28日迄
12月6日	スーダン紛争犠牲者支援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成18年6月11日迄
12月20日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ日本赤十字九州国際看護大学石田助手派遣～平成18年2月16日迄
平成18年1月6日	H.E.L.P in JAPAN 2006（日本赤十字九州国際看護大学）～24日迄
8月3日	プライマリー・ヘルスケア事業（フィリピン共和国）へ福岡赤十字病院西野看護師派遣～11月14日迄
11月30日	九州八県支部連合赤十字大会（福岡国際会議場）
平成19年1月4日	ケニア洪水救援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～2月18日迄
7日	dERU納車
12月5日	日本赤十字社九州血液センター竣工式（久留米市宮の陣）
平成20年1月17日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院井上医師派遣～3月10日迄
18日	H.E.L.P in JAPAN 2008（日本赤十字九州国際看護大学）～3月7日迄

年 月 日	あ ゆ み
6月5日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院久富看護師派遣 ～9月28日迄
12月4日	福岡県支部創設120周年記念事業「日本赤十字社所蔵名品展」開催（福岡県立美術館）～21日迄
6日	嘉麻赤十字病院70周年記念イベント（嘉麻市）
16日	福岡県支部創設120周年記念赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第49回総会（アクロス福岡）
平成21年8月1日	小倉魚町出張所オープン記念式典
24日	アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成22年2月26日迄
10月22日	福岡赤十字病院起工式
11月7日	福岡赤十字青年奉仕団50周年記念事業（支部）
18日	福岡県日赤紺綬会創立50周年記念総会（北九州市：ウェルシティ小倉）
平成22年2月22日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～3月31日迄
4月20日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～5月24日迄
6月15日	福岡赤十字病院立柱式
10日	日本赤十字九州国際看護大学開学10周年記念式典（看大・玄海ロイヤルホテル）
11月3日	パキスタン洪水災害救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～12月7日迄
平成23年1月8日	ウガンダ病院支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～5月1日迄
2月11日	アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成23年5月21日迄
3月11日	東日本大震災発生
12日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（救護員17名）～3月17日迄 石巻赤十字病院および宮城県内の避難所にて医療救護活動
21日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員15名）～3月27日迄
22日	献血ルーム「おっしょい博多」オープニングセレモニー（博多バスターミナル）
25日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計9班・救護員62名）～5月17日迄
5月15日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～19日迄
19日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員12名）～6月6日迄
26日	ハイチ大地震被災者支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～平成24年1月23日迄
6月27日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～29日迄
7月9日	カンボジア救急法普及支援事業最終評価（岩井事業部長 カンボジア派遣）～16日迄
8月1日	AKB48赤十字キャンペーン（福岡サンパレス）
21日	東北復興応援フェア・トークショー（JR博多駅）～25日迄
27日	東北復興応援フェア・トークショー（JR小倉駅）～30日迄
29日	H. E. L. P in JAPAN 2011（日本赤十字九州国際看護大学）～9月16日迄
平成24年8月25日	福岡県赤十字血液センター創立50周年記念式典（アクロス福岡）
11月27日	新救護倉庫・公用車庫完成
平成25年2月26日	朝倉市立蜷城小学校JRC加盟60周年記念式典
21日	福岡赤十字病院竣工落成式
7月5日	第49回献血運動推進全国大会（福岡市 福岡国際会議場）
平成26年7月12日	ミャンマー紛争犠牲者救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成27年3月4日迄
8月22日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～11月30日迄
9月15日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～平成27年2月8日迄
11月14日	福岡県日赤紺綬会第55周年記念総会（ヒルトン福岡シーホーク）
12月17日	献血ルーム「くろさきクローバー」オープニングセレモニー
平成27年7月3日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～7月31日迄
7日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～8月5日迄
平成28年4月14日	熊本地震災害（余震）発生 医療救護班を熊本県へ派遣（救護員8名）～4月15日迄
16日	熊本地震災害（本震）発生 医療救護班を熊本県へ派遣（計7班・救護員47名）～6月2日迄
平成29年7月5日	九州北部豪雨発生
6日	医療救護班を東峰村宝珠山地区および小石原地区へ派遣（計2班・救護員14名）～7月7日迄
12日	朝倉市避難所2か所に夜間健康支援及びびこころのケア要員を述べ125名派遣～8月17日迄
11月24日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～平成30年1月11日迄
12月6日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成30年4月12日迄
平成30年6月22日	南スーダン紛争犠牲者支援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～12月24日迄
7月5日	平成30年7月豪雨発生
9日	医療救護班を広島県へ派遣（計2班・救護員14名）～7月16日迄
10日	バングラディッシュ南部避難民救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣～10月15日迄
11月21日	福岡県支部創設130周年赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第59回総会（ヒルトン福岡シーホーク）
平成31年2月20日	福岡県支部創設130周年記念「国際救援チャリティコンサート」開催（アクロス福岡）
4月22日	福岡赤十字病院音楽奉仕団（寺坂委員長）による赤十字トワイライトコンサート実施

年 月 日	あ ゆ み
令和元年8月27日	令和元年8月豪雨発生
29日	医療救護班を佐賀県へ派遣（計2班・救護員16名）～8月30日迄
9月16日	ネパール・コミュニティ防災事業の成果確認のため、福岡県支部坂下主事派遣 ～9月27日迄
10月10日	令和元年度日赤紺綬・有功会会長協議会総会（ホテル日航福岡）
11月16日	第16回青少年赤十字福岡県大会開催（支部・大楠小学校）
12月18日	福岡県日赤紺綬会創立60周年記念総会（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉）
令和2年1月31日	久留米赤十字在宅サービスセンター事業廃止
2月20日	医療救護班第1班（救護員6名）を横浜港停泊中のクルーズ船へ新型コロナウイルス感染症対応のため派遣 ～2月22日迄
3月31日	久留米赤十字ケアプランセンター廃止
4月1日	地元放送局とタイアップによる広報活動を行う（令和2年度）
4月20日	新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設の宿泊療養者の医療支援 救護員延べ12名派遣 ～5月6日迄
5月7日	緊急事態宣言発出に伴い学童支援のためのハートルーム開設（～27日迄）
7月3日	令和2年7月豪雨発生
5日	医療救護班を熊本県へ派遣（計5班・救護員31名）～7月23日迄
令和3年2月28日	赤十字防災・献血キャンペーン実施（博多口駅前広場）
3月31日	久留米赤十字会館温水プール・フィットネス事業廃止
9月6日	献血ルーム「天神西通り出張所」オープニングセレモニー
10月1日	オンライン講習の運用開始
10月26日	ハイチ地震救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～12月5日迄
令和4年3月2日	「ウクライナ人道危機救援金」受付開始 県内各地にてボランティア及び職員による街頭募金実施
4月4日	パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院前澤看護師派遣 ～9月30日迄
10月15日	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～令和5年4月13日迄
11月19日	青少年赤十字創設100周年記念大会「第17回青少年赤十字福岡県大会」（大楠小学校）
令和5年7月3日	パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院松田医師派遣 ～10月30日迄
7月7日	令和5年7月豪雨発生
15日	救護員（看護師・主事）を東峰村へ被災者や現地地で活動するボランティアの健康観察のため派遣 （救護員22名）～7月29日迄
令和6年1月1日	能登半島地震災害発生
4日	医療救護班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員46名） ～2月5日迄 石川県輪島市・七尾市内の避難所にて医療救護活動
30日	日赤災害医療コーディネートチームを日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣 （救護員3名） ～2月3日迄
2月3日	石川県支部（災害救護実施対策本部）で医療救護班の派遣調整
7日	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～2月20日迄 こころのケア班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員4名） ～2月13日迄 石川県七尾市内の自治体職員に対するこころのケア活動
令和7年	
4月17日	国際赤十字・赤新月社連盟パプアニューギニア国事業支援に福岡赤十字病院 北原主事派遣 ～9月18日迄
5月20日	大韓赤十字社釜山広域市支社姉妹協定締結50周年
8月16日	国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム保健支援事業に 福岡赤十字病院前澤看護師派遣 ～令和8年12月13日迄
10月28日	アジア大洋州地域給水・衛星災害対応キット整備事業に福岡県支部田中主事派遣 ～10月28日迄
10月29日	献血ルーム「イオンモール香椎浜」オープニングセレモニー
11月9日	インドネシア防災強化事業に福岡県支部山本主事派遣 ～11月15日迄
11月22日	第18回青少年赤十字福岡県大会（支部・大楠小学校）
11月26日	福岡県日赤紺綬会創立65周年記念総会（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉）
11月27日	パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院松田医師派遣 ～12月21日迄

# 令和7年度 事業報告書

令和8年5月21日発行

発行 日本赤十字社福岡県支部  
〒815-8503 福岡市南区大楠 3-1-1  
TEL 092 (523) 1171 (代表)  
FAX 092 (521) 2552  
HP <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>